

教 育 研 究 業 績 書

2019年9月13日

氏 名 生野 金三 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教育学・国語科教育学	国語科教育・カリキュラム論、教育方法論、特別活動論、保育内容（言葉、人間関係）教職実践演習	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
① ポートフォリオを導入した授業	2001年4月～ 2005年4月	「国語科教育研究」「国語学概論」「保育内容の研究・言葉」等の科目では、ポートフォリオ（学習者である学生の学習過程や学習の成果が具体的に蓄積され、と同時にそれについて振り返ったことがファイルされたもの）を導入した授業によって、学生の学びの様相を学生自身だけでなく、指導者である教師もその様相が理解できるようにしている。ポートフォリオを導入した授業は、大学の授業の改善に生かせる評価の視点を与えてくれる。この成果は、2001年4月の『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）に掲載。
② 特別活動について	2001年4月～ 2005年6月	教員採用試験の学習会において学習指導要領について（特別活動の史的変遷をめぐって）指導を行った。（昭和22年の「学習指導要領 一般編」（試案）の自由研究、昭和26年の「学習指導要領 一般編」（試案）の教科以外の活動（小学校）・特別教育活動（中学校）、昭和33年の「学習指導要領」の特別教育活動・学校行事等（小学校、中学校）、昭和43年の「学習指導要領」の特別活動（小学校）、昭和44年の「学習指導要領」の特別活動（中学校）、昭和52年の「学習指導要領」の特別活動（小学校、中学校）等の史的変遷とその学習の仕方について指導を行った。）
③ ポートフォリオを導入した授業	2005年4月～ 2009年3月	「国語科教育法」「国語概説」「特別活動の研究」「教育実習事前事後指導」「総合演習」等の科目では、ポートフォリオを導入した授業を実践している。この成果は、平成19年12月の『月刊国語教育研究』（日本国語教育学会）に掲載。

事項	年月日	概要
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>① 「教育実習の手引き」</p> <p>② 『新美南吉研究～ごん狐の世界～』 (丸善KK) (再掲)</p> <p>③ 「学校図書館司書教諭講習」 ～学校図書館メディアの構成～</p> <p>④ 「学校図書館司書教諭講習」 ～学習指導と学校図書館～</p>	<p>1992年4月</p> <p>1998年1月</p> <p>2001年8月</p> <p>2003年8月</p>	<p>「教育実習事前事後指導」「教育実習」に必要な「教育実習の手引き」を作成した。 (概要) 教育実習の手引きは、「教育実習の意義と目的」「教育実習の内容」「教育実習の実際」「教育内容の心得」「学習指導」「学習指導案」「学習指導における発問と板書」等の観点より作成した。 (教育実習主任)</p> <p>1998年1月に刊行した『新美南吉研究～ごん狐の世界～』(丸善KK)は、「国語科教育研究」(平成12年3月までは「国語教材研究」)や「児童文学」の科目で教科書として使用している。 (概要) 本書は、まず作品「ごん狐」の背景となっている新美南吉の初期作品の特色や新美南吉作品の多くのモチーフとなっている人生における一種の諦観について論じた。次いで、作品成立の事情や作品論の展開について話を進めそしてそれを踏まえて草稿「権狐」と定稿「ごん狐」と叙述の対比を試みた。最後にこうしたことを念頭に置いて教材「ごんぎつね」の言語面や内容面について分析し考察を加えた。</p> <p>2001年8月に信州大学教育学部において学校図書館司書教諭講習の講師を担当した。その折、「学校図書館メディアの構成」に関する教材を作成した。 (概要) 学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る立場より「メディアの構成」「分類について」「分類作業」「目録」等の項目によって教材を作成した。まず「メディアの構成」では、狭義のメディアの構成と広義のメディアの構成について触れ、そしてそれと学校図書館との関わりについて解説した。次いで「分類について」は、その意義、標準分類表、日本十進分類表(NDC)、NDCの構成、請求記号(CN)等について解説した。更に「分類作業」では、その意義や手順、分類の実際について解説を加えた。最後に「目録」では、その意義、目録の作成について解説を加えた。</p> <p>2003年8月に信州大学教育学部において学校図書館司書教諭の講師を担当し</p>

事項	年月日	概要
⑤ 『ブックトーク入門』（よしみ工産KK）（再掲）	2004年3月	<p>た。その折、「学習指導と学校図書館」に関する教材を作成した。</p> <p>2004年3月に刊行した『ブックトーク入門』は、「保育内容の研究」（言葉）や「読書と豊かな人間性」等の科目で教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、ブックトークを指導する実践的力について論じたものである。まず、ブックトークの目的、と同時にブックトークを実践するに当たっての基本的な考え方について触れ、次いで小学校第3学年と第4学年の国語の授業の発展としてそれぞれ如何にブックトークの実践を試みたかについて論じた。最後に、これらの実践を通してブックトークを設計する力と実践する力が如何に育成されたかについて触れた。</p>
⑥ 『読書へのアニメーション』（よしみ工産KK）（再掲）	2004年9月	<p>2004年9月に刊行した『読書へのアニメーション』は、「保育内容の研究」（言葉）や「学習指導と学校図書館」等の科目で教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、読書へのアニメーションを指導する実践的力について述べたものである。まず、読書へのアニメーションの意味と同時に読書へのアニメーションの戦略とその実際の方途について触れ、次いで二つの戦略による具体的展開例を示した。最後に、読書へのアニメーションを実践する力量について触れた。</p>
⑦ 『特別活動の研究』（学教図書出版会）（再掲）	2005年4月	<p>2005年4月に刊行した『特別活動の研究』は「特別活動の研究」の科目で教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、中央教育審議会の答申、教育課程審議会等の教育改革の要請から特別活動の今日的課題、特別活動の史的変遷、特別活動の特色、特別活動の指導法の研究等と特別活動に関する総ての内容を網羅すると共に、学習指導案の展開例によって実践の方途を示したものである。</p>
⑧ 「介護等体験事前指導」	2005年8月	<p>2005年8月に介護等体験事前指導を行った。その際「介護等体験」に関する教材を作成した。</p> <p>（概要）</p> <p>平成10年度の大学入学者より小学校及び中学校の普通免許状の授与を受ける者は、介護等体験を行わなければならない</p>

事項	年月日	概要
⑨ 『読書指導の方法と実践』（学教図書出版会）（再掲）	2005年9月	<p>という法律の趣旨を踏まえ、「介護等体験の趣旨」「特殊教育諸学校の種類とそこでの教育」「障害についての基本的な考え方」「社会福祉施設の種類とそこでの支援」等の観点より教材を作成した。教職実習委員会委員長</p> <p>2005年9月に刊行した『読書指導の方法と実践』は、「学習指導と学校図書館」や「読書と豊かな人間性」等の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、学習者である児童生徒の読書への興味や関心の喚起、そして読書力の育成を志向し、「ブックトークの研究と実践」、そして「読書へのアニメーション」等という項のもとに編んだものである。</p>
⑩ 『総合演習の研究』（学教図書出版会）（再掲）	2005年10月	<p>2005年10月に刊行した『総合演習の研究』は、「総合演習」科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、教育職員養成審議会の答申の趣旨を踏まえ、「総合演習」「遊びの文化と『総合演習』の系譜」「『総合演習』における国際理解教育」「保育養成における『総合演習』等の項のもとに編んだものである。</p>
⑪ 教育課程の創造と展開（再掲）	2006年4月	<p>2006年4月に刊行した『教育課程の創造と展開』は、「教育課程論」の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、まずは教育課程の意義、教育課程の基準の改善の方針、教育課程に関する法制等の教育課程の基本的立場、教育課程の実施上の配慮等の教育課程の編成の基盤について触れ、次いでこれらのことを踏まえて指導計画の作成の方途を具体的に示したものである。</p>
⑫ 『教育実地研究（教育実習）の手引き』（白鷗大学教職実習委員会）（再掲）	2006年5月	<p>2006年5月に刊行した『教育実地研究（教育実習の手引き）』は「教育実習事前事後指導」の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、教師としての実践的指導の基礎の育成を志向して、教育実地研究の概略、察参加実習・学校教育実習・小学校教育実習のための基礎等の項のもとに編んだものである。</p>

事項	年月日	概要
⑬ 『実習における指導の技術』（再掲）	2006年8月	<p>2006年8月に刊行した『実習における指導の技術』は、「国語概説」「国語科教育法」等の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、教師としての実践的な指導力の基礎の育成の基盤となる指導案について述べたものである。具現すれば、まず指導案の役割について考察し、次いで保育所・幼稚園、小学校・中学校における指導計画と指導案の作成の仕方を解説し、最後に具体例を提示した。</p>
⑭ 『教育実践の基礎的研究』（再掲）	2006年8月	<p>2008年9月に刊行した『教育実践の基礎的研究』は、「国語概説」「国語科教育法」（教育課程論）等の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、授業作りの原則と方法、国語科における指導技術、学習指導案の意義と作成、学習指導案の事例、授業研究、指導計画の作成等について述べたものである。</p>
⑮ 幼児教育課程論	2009年4月	<p>2009年春期に「幼児教育課程論」の授業を行った。その際「指導案」に関する教材を作成した。</p> <p>（概要）</p> <p>この科目は、幼稚園教諭の免許を取得する者の必修科目である。教育実習や将来実践の場で活用できるよう、指導計画の基本的立場を踏まえ指導案に関する教材を作成した。指導案作成の手順、「ねらい」「幼児（子ども）の活動」「教師（保育士）の援助」「環境の構成」等の観点より教材を作成した。</p>
⑯ 『改稿読書指導の方法と実践』（学教図書出版会）（再掲）	2011年6月	<p>2011年6月に刊行した『改稿読書指導の方法と実践』は、国語、保育表現技術〈言語〉等の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、学習者である児童生徒の読書への興味や関心の喚起、そして読書力の育成を志向し、「ブックトークの研究と実践」、そして「読書へのアニメーション」等という項のもとに編んだものである。</p>
⑰ 『子供理解とその指導』（教材開発出版会）（再掲）	2013年9月	<p>2013年9月に刊行した『子供理解とその指導』は、子ども理解の理論と方法の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要）</p> <p>本書は、子供理科の方法（観察法、面</p>

事項	年月日	概要
<p>⑱ 『教育の方歩と技術』（教材開発出版会）（再掲）</p> <p>⑲ 『国語科教育法』（教材開発出版会）（再掲）</p>	<p>2015年9月</p> <p>2017年4月</p>	<p>接法）、子供の不適応行動（不登校）等の項のもとに編んだものである。</p> <p>2015年9月に刊行した『教育の方歩と技術』は、教育方法論の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、授業づくりと技術、学習指導案作成の方法と技術、授業研究、教育実践論等という項のもとに編んだものである。</p> <p>2017年4月に刊行した『国語科教育法』は、国語科教育法、初等教科教育法（国語）等の科目の教科書として使用している。</p> <p>（概要） 本書は、言語の機能と国語教育、国語科の目標 史の変遷、国語科教育における指導技術、国語科における関連指導、国語科の読書指導（教育）、読解の行動学習法、授業づくりとそのプレゼンテーション、学習指導案の意義と作成、教材研究と指導の研究等という項のもとに編んだものである。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価 「学生による授業評価」の実施 （平成23年度（後期））</p> <p>① 「初等教科教育法（国語）」（教職に関する科目）</p> <p>② 「保育表現技術（言語）（保育士養成に関する科目）</p> <p>④ 「生活文化論演習」（卒業必修科目）</p> <p>「大学における教員評価」 （7段階評価 A）</p>	<p>2011年度</p> <p>2016年度</p>	<p>当該科目全体の平均4.57点（その群全体の平均点4.47点）</p> <p>当該科目全体の平均4.70点（その群全体の平均点4.47点）</p> <p>当該科目全体の平均4.76点（その群全体の平均点4.47点）</p> <p>関西福祉科学大学（教育実践・学術研究・学務・社会的貢献等の総合評価）</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>① 教育実習生の指導について ・鹿児島県の国立小学校（鹿児島大学教育学部附属小学校）</p>	<p>1972年3月～ 1978年3月</p>	<p>1972年度より1977年度までの6年間、教育実習生の指導を行った。その主たる内容は、「教育実習に関する諸注意」と「各教科および道徳の学習指導」等の二者である。前者の「教育実習に関する諸注意」では、「勤務について」「学習、生活指導について」「提出物について」等の指導を行い、一方後者については授業設計より授業実施までの指導を行った。授業設計では、「単元の研究」「教材の研究」「指導の研究」等を踏まえ、学習指導案の作成の仕方を、一方授業実施では、発問計画、板書計画、作業のプリント等の教材の作成等をそれぞれ指導した。</p>

事項	年月日	概 要
② 大学の公開講座	2006年8月	新美南吉の作品「ごんぎつね」の民話的メルヘン性について触れた。
③ よくわかる中高国語	2011年11月	教員採用試験で問われる中高国語の基本的・基礎的な事項を厳選し、「問題」と「解説」を中心に一冊の本にまとめた。本書は「問題」「解決へアプローチ」「解答」「解説」等の項によって構成されている（共著 『時事通信社』）
5 その他		特記事項なし
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 小学校教諭一級普通免許状 養護学校教諭二級普通免許状 中学校教諭一級普通免許状（国語） 高等学校教諭一級普通免許状（国語）	1967年3月 1967年3月 1982年10月 1982年10月	茨城教育委員会 昭41小一普第392号 茨城教育委員会 昭41養学二普第28号 茨城教育委員会 昭57中一普第113号) 茨城教育委員会 昭57高一普第38号)
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 ① 特別教育活動、特別活動等について (1) 鹿児島県の公立小学校（出水市立上場小学校）	1967年4月～ 1968年3月	5年間学級担任（第5学年と第6学年の高学年のみ）をし、特別教育活動（昭和33年改訂の学習指導要領）と特別活動（昭和43年改訂の学習指導要領）についての実践し、それについての研究会を行った。実践は以下のように試みた。前者の特別教育活動では、A児童会活動、B学級会活動、Cクラブ活動の三領域の総てにわたって児童の自発的、自治的な実践活動を重視しながら実践を行った。一方、後者の特別活動では、児童活動の児童会活動、学級会活動、クラブ活動と学級指導の学校給食、保健指導、安全指導、学校図書館の利用指導と学校行事等について児童の心身の調和的な発達と個性の伸長を志向し、実践的活動を展開した。昭和33年改訂の学習指導要領では、特別教育活動の他に学校行事等が掲げられているが、これについては儀式、学芸的行事、保健体育的行事、遠足、学校給食等において児童の心身の健全な発達を図り、学校生活の充実を志向して実践を行った。 昭和45年度と昭和46年度は学級経営案を作成し、それについての検討会を行った。学級経営案の作成の手順は以下に示

事項	年月日	概要
		<p>す通りである。</p> <p>まず、学校教育目標をどのように学生の発達段階に適合させるかを検討した。次いで、学習者である児童の個々人の実態（学習面、生活面、そして性格や行動面にわたって）、また学級内の集団の様相を把握した。更に、児童の背景にある家庭や地域社会の実態を把握した。これらのことを踏まえ、児童が学習面、生活面に主体的に取り組むことを志向し、そのために教師がどう関わるかということを重視して学級経営案を作成した。それを踏まえて、学級経営案のあり様を検討した。</p>
② 図書委員について	1972年3月～ 1978年3月	<p>鹿児島大学教育学部附属小学校では、図書委員（校務分掌）を6年間担当した。西南学院大学文学部児童教育学科の図書館委員を担当した。前者においては、図書館資料を収集し、児童や教員の利用に供したり、図書館資料の分類排列を適切にし、その目録を整備したりと学校図書館の運営に関する仕事を担当した。一方、後者においては、大学の図書館運営の基本方針の立案及び実施、図書館諸規則の立案と検討、学生や教員への図書館資料の提供等に関わる仕事を担当した。</p>
③ 教育実習主任	1988年4月～ 2001年3月	<p>「教育実習事前事後指導」の科目を担当した。そこでは、「教育実習の目的」「教育実習の内容」「小学校教育実習の基礎」（小学校の教育課程、学習指導要領の性格、教材研究、授業における指導の方法、学習指導案の作成等）について指導を行った。教育実習に当たったの内諾の取り方の指導、教育実習訪問の計画、実習校訪問の諸手続き等の業務を行った。</p>
④ 教職課程委員会委員長	2005年4月～ 2006年3月	<p>「教育実習事前事後指導」の科目を担当した。</p> <p>教育実習に当たったの内諾の取り方の指導、教育実習訪問の計画、実習校訪問の諸手続き等の業務を行った。</p>
⑤ 教員採用選考試験の学習会（「教職特別演習」）	2005年6月～ 2010年8月	<p>教員採用選考試験の学習会（白鷗大学）においては、「小学校全科に関する内容」「教職教養に関する内容」（教育原理・教育史・教育心理・教育法規等）「論作文の書き方」（豊かな心・自己教育力・基礎・基本・個性教育・読書・いじめ等のテーマで）「場面指導」（避難訓練・清掃指導・給食指導・チャイム着席等）「模擬授業」（国語・算数・特別活動</p>

事項	年月日	概要
⑥ 小学校教員認定試験に向けての指導	2011年4月～ 2013年3月	<p>等)等についての指導を行っている。その結果、2008年度教員採用選考試験においては、3年次と4年次の演習で指導した学生が現役で11名(埼玉県には5名)合格した。2009年度は3名が合格した。2010年には7名合格した(埼玉県には5名。2009年4月より勤務が変わったため、その後は特別講義で指導(白鷗大学からの依頼で)した。</p> <p>「小学校教諭二種免許状」を認定試験で取得するための指導を行っている。その内容は、小学校の教科である国語、算数、生活、音楽、家庭、体育等のそれぞれの目標、内容の構成、そして指導計画の作成の方針、加えて国語科の学習指導を行う際の授業設計の様相、具体的展開の様相等である。一次試験と、二次試験に合格した。</p>
4 その他 論文の引用実績		<p>引用実績12件</p> <p>① 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」(平成11年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 39頁) 【被引用論文】 『新美南吉研究』1998年1月 丸善KK</p> <p>② 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」(1999年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 41頁) 【被引用論文】 「新美南吉の研究Ⅲ」(1994年2月、西南学院大学児童教育学論集第21巻1号 15～39頁)</p> <p>③ 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」(1999年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 43頁) 【被引用論文】 「新美南吉の研究Ⅳ」(1995年2月、西南学院大学児童教育学論集第21巻2号 155～175頁)</p> <p>④ 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」(1999年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 44頁) 【被引用論文】 「南吉作品の民話的メルヘン性をめぐって」(日本国語教育学会月刊国語教育研究30巻280集、40～45頁、1995年8月)</p>

事項	年月日	概 要
		<p>⑤ 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」（1999年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 46頁） 【被引用論文】 「新美南吉の研究Ⅴ」（1996年2月、西南学院大学児童教育学論集第22巻2号 39～52頁）</p> <p>⑥ 【引用論文】 「資料『ごんぎつね』研究・実践文献目録」（1999年、北海道教育大学学術リポジトリ 札幌国語研究4 47頁） 【被引用論文】 新美南吉の研究Ⅵ」（1996年2月、西南学院大学児童教育学論集第23巻1号 49～64頁）</p> <p>⑦ 【引用論文】 「子どもの読書を支える総合的な図書館行政：恵庭市「読書コミュニティの町」を事例として」（平成16年8月、北海道大学 公教育システム研究13 23～46頁） 【被引用論文】 「ブックトークの実践的研究」（2007年3月、白鷗大学論集第21巻2号 217～239頁）</p> <p>⑧ 【引用論文】 「『総合的な学習の時間』と『演習の動向』」（2003年3月、愛知江南短期大学大学紀要、69～91頁） 【被引用論文】 「総合演習の研究」2000年9月、西南学院大学児童教育学論集第27巻1号 17～44頁）</p> <p>⑨ 【引用論文】 「国内外の特別支援教育に関する取組状況等に関する調査の実施」（上越教育大学 資料38） 【被引用論文】 「特別支援教育のあり様をめぐって（その1）」（2005年12月、白鷗大学発達科学部論集第2巻1号 189～216頁）</p> <p>⑩ 【引用論文】 「国内外の特別支援教育に関する取組状況等に関する調査の実施」（上越教育大学 資料64） 【被引用論文】 「特別支援教育のあり様をめぐって（その2）」（2006年3月、白鷗大学論集第2巻1号 141～146頁）</p> <p>⑪ 【引用論文】 「子どもの読書の意義と効果に関する研究」（2013年3月、筑波大学 図書館情報メディア研究科、1～107頁）</p>
		⑫ 【引用論文】

事項		年月日	概要	
			<p>「子どもの読書の意義と効果に関する研究」 (2013年3月、筑波大学 図書館情報メディア研究科、1～107頁)</p> <p>【被引用論文】 「読書教育論について」 (2006年3月、白鷗大学論集第20巻2号 123～143頁)</p>	
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
(著書) 1. 国語科読解単元の研究と実践	共著	1977年12月	新光閣書店	<p>本書は、読解単元のあり様を実践的に探ったものである。具体的には、技能・活動・話題単元の下に単元の研究、教材の研究、指導の研究等の柱を設定し、それについて研究を進め、そしてそれらを踏まえて読みのあり様を実践的に探った。(240頁)</p> <p>担当部分：「小二単元 めずらしたてものせつめい文を読みましよう。」(68～88頁)</p> <p>共著者：<u>蓑手重則</u>、<u>有馬 求</u>、<u>生野金三</u>、<u>福崎智章</u>、<u>増田久幸</u></p>
2. 国語教材シリーズ12言語教材編	共著	1981年11月	桜楓社	<p>本書は、言語指導を有効に実り豊かに進めていく上で活用されるべき言語教材についての理論的解明を試み、そしてそれを踏まえた語句・語彙の指導をめぐって、そのあり様実践的に探ったものである。(145頁)</p> <p>担当部分：「『ことばあそび』の工夫による語句・語彙の指導例」(40～55頁)</p> <p>共著者：<u>湊 吉正</u>、<u>桑原 隆</u>、<u>生野金三</u>、<u>野口和子</u>、<u>内山正太郎</u>、<u>秋元悦二</u>、<u>安居総子</u>、<u>塚田泰彦</u></p>
3. 国語教育の創造的視野	共著	1987年2月	あすなろ書房 滑川道夫先生 喜寿祝賀記念論文 集刊行委員会	<p>本書は、滑川道夫先生の喜寿祝賀記念論文集である。担当部分では、樋口の読書教育論の諸様相を探り、それに考察を加えた。換言すれば、まず樋口の読書教育論の背景となっている教育観を探り、次いで読書教育論の展開について論究し、それに考察を加えた。(310頁)</p> <p>担当部分：「樋口勘次郎の読書教育論の考察」(95～105頁)</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
4．国語科教育研究法	共著	1987年4月	聖文社	<p>本書は、多様で複雑な国語科教育の実態から、どんなテーマが選ばれ、どのような研究の筋道や方法が考えられ、どんな文献を参考にしたらよいか、すなわち国語科教育の研究方法はいかにあるべきかということについて、解説を加えたものである。(129頁)</p> <p>担当部分：「教師論」(89～92頁)、「指導技術論」(112～115頁)</p> <p>共著者：有沢俊太郎、安西迪夫、小川雅子、塚田泰彦、常木正則、藤田正春、山本茂喜、<u>生野金三</u></p>
5. 新美南吉研究 ～ごん狐の世界～	単著	1998年1月	丸善KK	<p>本書は、まず作品「ごん狐」の背景となっている新美南吉の初期作品の特色や新美南吉作品の多くのモチーフとなっている人生における一種の諦観について論じた。次いで、作品成立の事情や作品論の展開について話を進めそしてそれを踏まえて草稿「権狐」と定稿「ごん狐」と叙述の対比を試みた。最後に、教材「ごんぎつね」の1の場面より6の場面までの総ての叙述について、順次番号を付し、それぞれの言語面や内容面について分析し、そして考察を加えた。この作業を通して教材「ごんぎつね」の蔵する陶冶価値、構成や表現の特徴について明らかにした。(246頁)</p>
6. 国語科教育の理論 と実践	共著	1999年4月	現代教育社	<p>本書は、平成10年に改訂された学習指導要領を視野に入れ国語科教育の学習内容や学習方法についてのあり様を志向して編まれたものである。具現すれば、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の3領域と「言語事項」についての基本的な考え方とその具体的な指導法について触れたものである。(268頁)</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
7. 保育内容 言葉	共著	2003年4月	北大路書房	<p>担当部分：「教材研究と学習書研究」（32～34頁）、「文学的文章を読むこと」の教育に関わる指導技術（117～119頁）</p> <p>共著者：松川利広、櫻本明美、牧恵子、難波博孝、佐藤洋一、<u>生野金三</u></p> <p>本書は平成10年に改訂された幼稚園教育要領と平成11年に改訂された保育所保育指針を視野に入れ、乳幼児の言葉の育ちのあり様を志向して編まれたものである。具現すれば、領域「言葉」がめざしているもの、言葉を育てる環境、言葉を育てる児童文化と地域文化等について触れたものである。（143頁）</p> <p>担当部分：「第2章1節 領域「言葉」のめざしているもの」（24～29頁）</p> <p>共著者：芦田 宏、門田理世、<u>生野金三</u>、植田 明</p>
8. ブックトーク入門	単著	2004年3月	よしみ工産KK	<p>本書は、ブックトークを指導する実践的的力量について論じたものである。まず、ブックトークの目的、と同時にブックトークを実践するに当たっての基本的な考え方について触れ、次いで小学校第3学年と第4学年の国語の授業の発展としてそれぞれいかにブックトークの実践を試みたかについて論じた。最後に、ブックトークを設計する力と実践する力がいかに育成されたかについて触れた。（90頁）</p>
9. 読書へのアニメーション	単著	2004年9月	よしみ工産KK	<p>本書は、読書へのアニメーションを指導する実践的的力量について述べたものである。まず、読書へのアニメーションの意味と、同時に読書へのアニメーションの戦略とその実際の方途について触れ、次いで二つの戦略による具体的展開例を示した。最後に、読書へのアニメーションを実践する力量について触れた。（85頁）</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
10. 改稿新美南吉研究～ごん狐の世界～	単著	2005年4月	学教図書出版会	<p>本書は、平成10年1月に刊行した『新美南吉研究』を改稿したものである。新たに「『文学的文章を読むこと』の教育に関わる指導技術」の章を加え、そして「新美南吉略年譜」を資料として加え、より充実あるものとした。 (218頁)</p>
11. 特別活動の研究	共著	1998年4月	学教図書出版会	<p>本書は、中央教育審議会の答申、教育課程審議会等の教育改革の要請から特別活動の今日的課題、特別活動の史的変遷（昭和22年の「学習指導要領 一般編〈試案〉」において新設された「自由研究」から「平成20年改訂の『学習指導要領』までの」）、特別活動の目標の基本的な性格と内容の特色（小学校・中学校の各領域の）等を踏まえ、特別活動の指導過程と学習過程（学習指導案の形式も）、更に学級活動児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事等の指導法の展開例の実践の方途を具体的に示したものである。（150頁） 担当部分：「まえがき」「教育課程の改善の基本方針」、「特別活動の成立と発展」、「特別活動の内容」、「特別活動の指導（特別活動の指導計画の作成、特別活動の指導過程と学習過程、学級活動の指導）」（1～80頁）「資料」（131～147頁） 共著者：豊澤弘伸、<u>生野金三</u></p>
12. 読書指導の方法と実践	単著	2005年9月	学教図書出版会	<p>本書は、学習者である児童生徒の読書への興味や関心の喚起、そして読書力の育成を志向し、「ブックトークの研究と実践」、そして「読書へのアニマシオン」等という項のもとに編んだものである。（132頁）</p>
13. 総合演習の研究	共著	2005年10月	学教図書出版会	<p>本書は、教育職員養成審議会の答申に掲げられている「総合演習」の趣旨を踏まえ、まず「総合演習」の本質を明確にし、その教育内容や方法について考察し、次いで人類共通のテーマに内包される「国際理解教育」をめぐって、実践への方途を「課題発見」「課題探究」「整理・発表」等の探究</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
14. 教育課程の創造 と展開	共著	2006年4月	学教図書出版会	<p>過程、更には模擬授業の展開例によって具体的に示し、実践が可能となるようにし、加えて保育養成における「総合演習」のあり様にも触れたものである。(156頁) 担当部分：「まえがき」、「総合演習」(1～28頁)、「総合演習の実践展開」(106～125頁) 共著者：生野金三、中谷陽子、豊澤弘伸、五十嵐敦子、森 静子</p> <p>本書は、まずは教育課程の意義、教育の基準の改善の方針、教育課程が目指す教育実践の方途、教育課程に関する法制等の教育課程の基本的立場について触れ、次いで教育課程編成の原則や方法、教育課程編成に当たっての留意事項等について触れ、更にこれらのことを踏まえ、授業時数等の運営と改善、各教科、道徳、特別活度及び総合的な学習の時間の指導計画の作成について触れ、最後に指導計画の作成の方途を具体的に示したものである。(193頁) 担当部分：「はじめに」「教育課程の基本的立場」(1～26頁)、「教育課程編成の基本的な考え方」(27～32頁)、「各教科、道徳特別活動および総合的な学習の時間の指導計画の作成」(58～63頁)、「指導計画の作成」(108～162頁)、付録(163～193頁) 共著者：豊澤弘伸、北村好史、生野金三</p>
15. 教育実施研究 (教育実習)の手 引き	共著	2006年5月	白鷗大学教職実習 委員会	<p>本書は、教師としての実践的指導力の基礎の育成を志向し、教育実施研究の概略、観察参加実習、学校教育実習、小学校教育実習のための基礎等の項のもとに編んだものである。(78頁) 担当部分：「はじめに」「教育実習の概略」「観察参加実習」「教育実習」(1～21頁)、「小学校教育実習のための基礎」(42～54頁) 共著者：北村好史、生野金三、生野桂子、豊澤弘伸、中谷陽子</p>
16. 実習における指導 の技術	共著	2006年12月	教育出版	<p>本書は、教師としての実践的指導力の基礎の育成の基盤となる指導案について述べたものである。</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
17. 教育実践の基礎的 研究	共著	2008年9月	学教図書出版会	<p>具現すれば、まず、指導案の役割について考察し、次いで保育所・幼稚園、小学校・中学校における指導計画と指導案の作成の仕方を解説し、最後に具体例を提示した。(131頁)</p> <p>担当部分：「まえがき」「指導案の役割」(1～9頁)、「小・中学校実習における指導案」(41～42頁、51～59頁)</p> <p>共著者：豊澤弘伸、<u>生野金三</u>、斉藤武</p> <p>本書は、授業設計より授業実践に至るまでの授業作りの原則と方法、指導法の中核となる国語科における指導技術、学習指導案の意義と作成の仕方、学習指導案の事例、授業を改善していくための授業分析の方途、指導計画の作成等より成っている。</p> <p>担当部分：「業づくりの原則と方法」(1～39頁)、「国語科における指導技術」(40～58頁)「学習指導案の意義と作成」(59～64頁)、「学習指導案の事例(国語、総合的な学習の時間」(65～92頁)</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>、生野桂子</p>
18. 保育内容 言葉	共著	2009年1月	北大路書房	<p>本書は、平成20年に改訂された幼稚園教育要領と保育所保育指針を視野に入れ、乳幼児の言葉の育ちのあり様を志向して編まれたものである。具現すれば、領域「言葉」の意図するところ、言葉の指導の領域、言葉を育てる環境、言葉を育てる児童文化と地域文化等について触れたものである。(153頁)</p> <p>担当部分：「第2章1節 領域「言葉」の意図するところ」(24～29頁)</p> <p>共著者：小田豊、芦田 宏、<u>生野金三</u>、植田 明</p>
19. 国語と表現法	単著	2010年4月	学教図書出版会	<p>本書は、「国語」の基盤となる内容とその表現法を中核に据えて</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
20. 改稿読書指導の方法と実践	単著	2011年6月	学教図書出版会	<p>編んだものである。その主たる項は、表現と理解、ラングとパロール、「学習指導要領」（国語）、教育論文の書き方、文章の構成、表記の基準原稿用紙の使い方、教育論文の具体例等である。（105頁）</p> <p>本書は、学習者である児童生徒の読書への興味や関心の喚起、そして読書力の育成を志向し、「ブックトークの研究と実践」、そして「読書へのアニメーション」という項のもとに編んだものである。（122頁）</p>
21. 豊かな言語活動が拓く国語単元学習の創造家庭生活、園生活で育つ言葉	共著	2011年8月	東洋館出版社	<p>本書は、まず家庭における言葉の研究の重要性について触れ、そしてそれを踏まえ家庭の中での言葉の研究のあり様を具体例を基に考察しものである。家庭の中における環境、就中母親を中核とした環境が乳幼児の言葉の発達に影響を及ぼすことについて触れた。（347頁）</p> <p>担当部分：「第五章 ことばの研究」（300～309頁）</p>
22. 小学校教育実習 Q & A 99	共著	2011年10月	萌文書林	<p>本書は、教員としての実践的指導力の基礎を一層高める観点からも重要視されている教育実習について触れたものである。就中、実習前、実習中、実習後のそれぞれの段階において留意しなければならない事項を取り上げ、それについて解説を加えた。（145頁）</p> <p>担当部分：「Q & A の 73～76, 78, 92」（101～105頁、108頁、126頁）</p> <p>共著者：梅澤実、生野金三他</p>
23. 国語教育総合事典	共著	2011年12月	朝倉書店	<p>本書は、激変する学校教育の現状を踏まえ、これまでの国語教育で積み重ねてきた様々な実践と理論を整理し、言葉の教育の道筋を提起する総合事典である</p> <p>担当部分（本論は、幼・保における「文字の学びと環境」「ことば遊び」等単元のもとにそれぞれの様相を具体的に探ったものである。前者の「文字の学びと環境」をめぐっては、「文字を識別する能力の育成」「筆順を正しく見せる</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
24. 教育の方法と技術 (幼児教育)	単著	2011年12月	学教図書出版会	<p>事例」等について触れ、一方後者の「ことば遊び」をめぐっては、「文字取り遊び」「ことばさがし」等について触れた。就中、「文字の学びと環境」をめぐっては、人的環境、物的環境等が乳幼児の言葉の発達に影響を与えることについて触れた。(870頁)</p> <p>本書は、教員・保育士等の資質能力の育成、就中実践的指導力の育成を志向して編んだものである。まず、各5領域に示されている「ねらい」や「内容」は幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されることによって達成されるとした。その際、指導案を作成するが、そこでは「ねらい」を達成するために、「幼児の活動」や「教師の援助」等との関わりで環境構成の重要性を指摘した。(104頁)</p>
25. 授業づくりの方法	共著	2013年4月	教材開発研究会	<p>本書は大学における教職課程の「教職に関する科目」の基礎的なテキストとして編纂したものである。その内容は、教材研究の基礎的な考え方、その具体的な方途、そして教授—学習過程の構想といった授業づくりの原則、そして本時の課題設定よりその探究に至る一連の展開過程について触れた。(179頁)</p> <p>共著者：生野金三、井口眞美 担当部分：「はじめに、授業づくりの原則とその実践、学習指導の意義と様式、学習指導案の形式、小学校国語科の学習指導案、小学校社会科の学習指導案、小学校算数の学朱指導案」(1～32頁)、「小学校道德の学習指導案、小学校特別活動の学習指導案」(82～110頁)、「教員採用選考試験に向けて、作品の陶冶価値の研究、読み聞かせ」(164～179頁)</p>
26 . 改稿教育課程の創造と展開	単著	2013年9月	教材開発研究会	<p>本書は、『教育課程の創造と展開』に保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育課程の編成と指導計画の作成、そして指導計画の実際の作成と展開を を加えた。(179頁)</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
27. 子供理解とその指導	単著	2013年9月	教材開発研究会	<p>本書は、子供理解の意義について触れ、それを踏まえて子供理解の方法（観察法、面接法）、子どもの不適応行動（不登校）等について触れた。 （109頁）</p>
28. 「教育の方法と技術」	単著	2015年9月	教材開発研究会	<p>本書は、教員に求められる資質能力、就中実践的指導力の育成を志向して編んだものである。具現すれば、「授業について(授業とは)」「授業設計(授業づくり)と技術」「学習指導案作成の方法と手順」「指導技術をめぐって」「授業研究」「教育実践論：国語科の学習指導案例(教材「たんぼぼのちえ」の場合、教材「一つの花」の場合、教材「ごんぎつね」の場合、短歌・俳句の場合)、算数科の学習指導案例(単元「かけ算の筆算」の場合、単元「わり算」の場合、単元「分数と整数のわり算」の場合)等の項のもとに編んだものである。 （179頁）</p>
29. 「保育・教職実践演習」	共著	2016年9月	萌文書林	<p>本書は、平成22年より新設科目として教職課程の中に位置付けられた「教職実践演習」のあり様を志向して編んだものである。具現すれば、「教職実践演習」の趣旨、教職履修カルテの記入の方途、「教職実践演習」において求められる資質・能力の育成のあり様について具体的に触れた。 共著者：生野金三、井口眞実他 担当部分：「はじめに」(iii頁) 「使用の手引き」(x～xi頁) 保育・教職実践演習の目的(4～5頁)「履修カルテの意義」(16～17頁)「履修カルテの実際」(20～24頁)「課題認識と探究心」 (164～169頁) (182頁)</p>
30. 「新しい特別活動の指導原理」	共著	2017年1月	ミネルヴァ書房	<p>本書は、「特別活動の目的」「各領域の特色」「特別活動と教科、道徳との関係」「特別活動の歴史」等の項のもとに編んだものである。(217頁) 共著者：山崎英則、南本長穂、生野金三他 担当部分：「特別活動の歴史」 (177～192頁)</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
(著書) 31. 「国語教育法」	単著	2017年4月	教材開発出版会	本書は、「言語の機能と国語教育」「国語科教育における指導技術」「国語科における関連指導」「読解の行動学習法」「授業づくりとそのプレゼンテーション」「学習指導案の意義と作成」「教材研究と指導の研究(教材『ごんぎつね』)」、加えて「学習指導要領の研究」及び「領域『人間関係』の研究」等の項目のもとに編んだものである。 (178頁)
32. 教育の原理と方法	共著	2017年9月	教材開発出版会	本書は、「教育の本質」「先達の教育観(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ、谷本富、樋口勘次郎、石山脩平、芦田恵之介)」「平成29年改訂『幼稚園教育要領』」「平成29年改訂小学校学習指導要領(国語)」「幼稚園教育内容の変遷」「保育の指導法」「授業設計～学習指導案の意義と作成～」「指導計画の作成～指導案の作成～」「総合的な学習の時間の研究」等の項目の基に編んだものである。(191頁) 共著者：生野桂子、 <u>生野金三</u> 担当部分：「まえがき」(1～4頁)「教育の本質」(7～11頁)「先達の教育観」(12～37頁、46～56頁)「平成29年改訂小学校学習指導要領(国語)」(65～74頁)「授業設計～学習指導案の意義と作成～」(139～151頁)「総合的な学習の時間の研究」(172～181頁)
33. 幼稚園・小学校教育の理論と指導法	共著	2018年4月	鼎書房	本書は、平成29年に改訂された「幼稚園教育要領」及び『小・中学校学習指導要領』を基に、幼児児童生徒の指導のあり様を志向し、それぞれの段階における指導計画及び授業づくりについて具体的に解説したものである。(210頁) 共著者： <u>生野金三</u> 、香田健治、高木史人、湯川雅紀他

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
(学術論文) 1. 発展的な力を育てる国語科の学習指導Ⅰ－読書領域における発展的な力	共著	1973年6月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究紀要 1～23頁	本論では、読書指導において発展するエネルギーを帯びた力について探り、次いで児童の読書生活の実態を基に、その問題点を浮彫りにした。更に、読書指導における実験授業を通して、読書の基本的指導過程を仮説した。 担当部分：「読書に関する意識や能力についての基礎調査」（7～16頁） 共著者：田実健一、川畑宣明、 <u>生野金三</u>
2. 発展的な力を育てる国語科の学習指導Ⅱ－教科書読書単元における指導内容の構造化－	共著	1974年5月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究紀要 1～27頁	本論では、教科書教材を起爆材とした読書指導のあり様を探ったものである。まず、読書前・読書中・読書後のそれぞれの段階に働く技能を見極め、その構造化を図った。次いで、その技能は学習過程で如何に身に付けることが必要であるかを実践的に探った。 担当部分：「テーマ設定の立場」（2～3頁）、「教科書単元における読書指導の展開」（21～26頁） 共著者：田実健一、川畑宣明、 <u>生野金三</u> 、川田博夫
3. よい発問を生み出す根拠をどこに求めるか	単著	1975年4月	教育科学国語教育 17巻 5号 第203号 59～62頁	本論では、まず教材研究によって発問事項を列挙した。教材研究では、内容価値について検討するのは当然であるが、その際学習者の立場に重きを置いた検討も十分なされなければならない。このようにしてこそ教材に即した基本的な発問の精選が可能となるのである。次いで、教材研究で明らかにされたことを踏まえて、どのような授業を行うかというその構想を試み、そこから発問の内容や位置を明らかにした。

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
4. 音読と黙読	単著	1975年5月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究収録 第8号 43～47頁	本論では、音読・黙読における読解力の実態、音読・黙読における読字数と読解力の発達傾向等を質問紙法や観察法によって探ったものである。読字数・読解力共に黙読の方が音読を上回っていることが明らかにされた。また、黙読の発達傾向は、学年の進行を通して着実に伸長していることが明らかにされた。
5. 発展的な力を育てる国語科の学習指導Ⅲ—読書材の探索力を身につける学習過程の構成—	共著	1975年5月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究紀要 1～25頁	本論では、まず目指す読書指導において、探索力をなぜ重視するのかを明らかにし、そしてその時探索力は具体的にどのようなものが考えられるかを探った。次いで、それはどのような学習過程を通して身に付くものなのかを実践的に探り、三者の場合について学習過程を構成した。 担当部分：「探索力について」（3～4）「探索力を身に付ける学習指導過程展開」（7～12頁） 共著者：川畑宣明、 <u>生野金三</u> 、川田博夫、宮下昭広
6. 発展的な力を育てる国語科の学習指導Ⅳ—探索力を重視した読書活動とその指導	共著	1976年5月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究紀要 1～27頁	本論では、まず読書教材によって課題を解決していく読書活動は、学年に発達段階からどのように系統立てられるのか、その指導内容の機能関係からの価値を明らかにした。次いで、系統化した指導内容は、個人が課題を抱きそれを解決していく読書活動を展開するに当たって、どういった特徴がみられるかを観点にしたがって考察した。更に、系統と読書指導の特徴から読書指導の重点を整理し、その指導の方法を明らかにした。 担当部分：「説明的文音による探索力の系統」（9～12頁） 共著者：川畑宣明、 <u>生野金三</u> 、川田博夫、宮下昭

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
7. たくましさを育てる教育課程の創造—体験活動を重視した「みどりの時間」の展開—	共著	1977年11月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校紀要 51～90頁	<p>本論は、従来の教育課程を見直し、児童自らが主体的に問題を探究し、そしてその解決の過程において感動的体験を味わえるような第4の領域「みどりの時間」を設定し、そこで「体のたくましさ」「心のたくましさ」「頭脳のたくましさ」等のあり様を探った研究である。「みどりの時間」では、「作る活動」「育てる活動」「ふれる活動」「きたえる活動」「つたえる活動」「つくす活動」等の六者の活動を構造化した。そして、その中で「きたえる活動」をめぐって第2学年の児童を対象とし、実践を試み、それに考察を加えた。</p> <p>担当部分：「第2学年の実践」(71～90頁)</p> <p>共著者：永留弘之、田中純也、石塚修身、<u>生野金三</u></p>
8. 望ましい複式教育のあり方をめざして	共著	1978年3月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校 研究収録 第10号 196～246頁	<p>本論は、望ましい複式教育のあり方を志向し、複式学級の特性に立つ学習指導について探ったものである。具現すれば、学習者の実態を踏まえ国語科における指導計画作成の基本的な考え方とその作成に仕方、さらにはその活用の仕方について探った。</p> <p>担当部分：構想、考察まとめ(215～228頁)</p> <p>共著者：大迫健一郎、<u>生野金三</u></p>
9. 複式教育学習指導の実態	共著	1978年3月	鹿児島県 教育委員会 複式学級学習指導 の手びき 1～159頁	<p>本論は、2個学年の児童生徒が集まって構成する学級集団(複式学級)における学習指導の基本的な立場について触れたものである。まず、複式学級の指導計画の類型を探り、次いで複式の特性に立つ指導過程について探った。特に後者については指導段階における直接指導と間接指導との組み合わせ、そして直接指導時と間接指導時におけるそれぞれの留意事項について整理した。</p> <p>担当部分：構想、考察まとめ(84～101頁)</p> <p>共著者：福崎智章、石塚勝郎、三方健治、<u>生野金三</u></p>

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
10. たくましさを育 てる教育課程の創 造Ⅱ－行動的実践 力を育てる「特別 活動」の展開、 「みどりの時間」 の実証－	共著	1978年11月	鹿児島大学 教育学部 附属小学校紀要 111～115頁	<p>本論は、「みどりの時間」と最も関わりを有する「特別活動」に視点を当て、両者の相違点を探究すると同時に、特別活動のあり様について探った研究である。その中で、たくましい児童の育成を志向し、学級指導の果たす役割、学級指導の中核的なねらい、学級指導の特質等を探り、それを踏まえ、学級指導年間指導計画を作成し、第5学年の児童によって実践を試みた。</p> <p>担当部分：「構想計画」（111～112頁）</p> <p>共著者：浜野允秀、内村涼恵、<u>生野金三</u></p>
11. 言語の諸様相 (査読付)	単著	1979年2月	人文科学研究会 人文科学研究 VI 65～74頁	<p>本論は、言語をめぐる二つの領域、すなわち言語の意味機能と言語の伝達機能の面からその様相を探ったものである。前者はビューラーのオルガノン・モデルを基にその様相を探り、後者はビューラーの言語に対する精神を踏まえ、それを深化する方向で言語を伝達機能の立場から捉えているヤーコブソンの論を基にその様相を探った。</p>
12. 国語科における ティーチング・ス キルー授業分析に よるマイクロティ ーチングの設計と 実施の研究	共著	1979年3月	筑波大学 昭和52・53年度科 学研究費補助金(研 究成果報告書) 1～74頁	<p>本論は、教科に固有な教授行動をマイクロティーチングで教育実習生に事前に身に付けさせ、その質的向上を図ろうとするものである。マイクロティーチングを設計し、実施するには、まず、習得すべきティーチング・スキルを明らかにしなければならない。そこで、国語科では授業分析と実験授業によってそれを抽出することにした。授業分析は、行動形態と教授機能の二つの観点から行い、一方実験授業は目標段階、直観段階、検証段階の三者に重きをおいて、その様相を探った。</p> <p>担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>共著者：湊吉正、<u>生野金三</u>、山川信一</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
13. わたしの指導案	単著	1979年9月	明治図書 実践国語研究 3巻5号 第15号 104～108頁	本論は、学習指導案を言語能力の育成という立場からどのように作成すべきかを試みたものである。学習指導案は、単元については教材の内容と機能とを基にどのような言語内容と言語能力が育成できるという観点から述べ、目標は総合目標と個別目標を列挙し、本時の計画の中には、言語的事項を具体的に掲げるという三点に特に留意して作成した。
14. 国語科における文法能力の評価について	共著	1980年3月	筑波大学系 人文科学教育学会 人文科学教育研究 VI	国語科の内容の重要な一環をなす「言語事項」に関するところに焦点を合わせ、小学生・中学生におけるそのような文法能力の一つの基本的な部分とその発達状況について、その一端を把握するねらいをもって問題を作成し、実施した。その結果、小学校・中学校の学年の進行を通して、文法能力の基礎的な面は着実に伸長している状況が明らかになった。しかし、小学校における修飾語をめぐる事項や中学校における接続語句をめぐる事項については、必ずしもそのような文法能力の伸長が確認されなかった。 担当部分：「小学生の文法事項理解の状況」（43～48頁） 共著者：湊吉正、 <u>生野金三</u> 、山川信一
15. イメージの諸様相 (査読付)	単著	1980年3月	人文科学研究会 人文科学研究 VII 47～59頁	本論は、イメージについての基本的な考え方を整理する意味で、その諸様相について探ったものである。まず、ピアジュやブルーナーの論を基に人間の成長過程におけるイメージの発生及びその位置付けについて考察した。次いで、イメージの本質を探る立場より、以下の三者の観点から考察を加えた。イメージと最も深い関わりをもつ象徴の働きについて、ピアジュやユングの輪を基にまず考察し、次にイメージが多種多様の刺激を媒介として形成されるということがら、その内容が多岐にわたっていることを踏まえ、それを四つの観点から分類し、最後にイメ

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
16. イメージに関する 言語教育論的探求 一読みの過程にお けるイメージ (修 士論文)	単著	1980年3月	筑波大学大学院 教育研究科	<p>イメージの意識について考察を加えた。</p> <p>論文の構成は、以下に示す通りである。</p> <p>序論では、人間の行動の導き手がイメージであると言及されることがら、その重要性を述べ、国語科教育でも再認すべきであるとした。第1章においては、イメージの基本的な考え方を整理する意味で、その諸様相を探った。第2章では、イメージと言語との関わりについて考察した。第3章では、国語科教育におけるイメージ化の読みの過程を具体的な教材を基に構成した。</p> <p>(1～169頁)</p>
17. 『蜘蛛の糸』の 財源をめぐって (査読付)	単著	1981年3月	人文科学研究会 人文科学研究 VIII 31～37頁	<p>本論は、大正7年鈴木三重吉の主宰する児童雑誌『赤い鳥』の創刊号に掲載された童話『蜘蛛の糸』(芥川龍之介作)の財源を探ったものである。まず、『蜘蛛の糸』の財源をドストエフスキー「カラーマゾフの兄弟」の中の「一本の葱」、あるいはトルストイ『カルマ』の翻訳『因果の小車』の中の「蜘蛛の糸」等より探り、次いで芥川龍之介の『蜘蛛の糸』と『因果の小車』の「蜘蛛の糸」との対比を試み考察を加えた。</p>
18. 内言と外言をめぐって	単著	1982年7月	初等教育研究会 教育研究 第36巻第7号 78～82頁	<p>本論は、言語における思考の問題を掘り下げる観点より内言と外言とについて探ったものである。まず、内言と外言の発生を探り、次いで内言の諸様相について触れ、そしてそれらを踏まえて内言と外言との関わりについて考察を加えた。</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
19. 関連指導の史的展開 (査読付)	単著	1982年3月	人文科学研究会 人文科学研究 IX 27～46頁	本論は、「関連指導の史的展開」について探ったものである。戦前における読み書きの関連指導については、湯本の『読書入門』、垣内の『国語の力』、石山の『国語教育』、芦田の『数式と教壇』、「小学校令施行規則」等を基に史的変遷を探った。戦後においては、4回にわたって改訂された学習指導要領にしたがって関連指導の諸様相を探った。
20. 樋口勘次郎の作文教育論の考察 (査読付)	単著	1983年3月	全国大学 国語教育学会 国語科教育 第30集 64～70頁	本論は、統合主義の具体的な実践例「飛鳥山遠足」と自発活動主義の具体的な実践例を取り上げ、そこから樋口勘次郎の作文教授の内容・特質を明らかにした研究である。と同時に教科以外の学習「飛鳥山遠足」と教科との関わり、つまり学校行事（特別活動）と教科との関わりについても考察を加えた。
21. 谷本富研究 (1) 明治30年代作文教育論探求の基礎作業として (査読付)	単著	1983年6月	人文科学研究会 人文科学研究 X 7～18頁	本論は、谷本が筆無精の解消を志向して「感覚に映じたる国語を写す」「記憶に存せる国語を写す」「記憶せる国語を変えて写す」「推理を以って国語を写す」等や自作文をめぐる問題についてまず探り、そしてそこから谷本の作文教授の内容・特質を明らかにしようとしたものである。
22. 谷本富の「読書教授法」の一考察	単著	1984年2月	教育出版センター 実践国語教育情報 第1巻 第3号 58～65頁	本論は、谷本の読書教授法の特徴と認められる教授形式を探り、それに考察を加えたものである。換言すれば、まずヘルバルト主義教授法の先導的主張者であった谷本が、その5段階教授法を読書科に適用して、その指導過程をいかに構成しているかについて述べ、次いでそこで力説している読みの3種について述べ、そしてそこから谷本の読書教授の内容・特質を明らかにし、それに考察を加えたものである。

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
23. 上田萬年の作文 教授論 (査読付)	単著	1985年3月	日本教育方法学会 教育方法学研究 第10号 29～36頁	<p>本論は、上田萬年の作文教授論の内容・特色を探り、それに考察を加えたものである。上田が作文教授の必要性を如何に捉えているかについてまず探り、次いで上田の作文教授の根本について、その要件や目的の面から考察した。更に、上田が書き手の思想を豊富にする立場より指摘する作文教授の材料を集める方途、つまり「他学科の上」「実物教授の上」「学校外の事柄」等について整理した。そして、最後に上田が作文教授の階級を易から難へ三段階に分けて捉えていることに触れ、これらのごとより上田の作文教授の内容・特質を明らかにし、考察を加えた。</p>
24. 小山忠雄の読書 教授法 (査読付)	単著	1985年12月	人文科学研究会 人文科学研究 X II 12～20頁	<p>本論は、小山の読書教授論の目的や方法・内容を探りそれに考察を加えたものである。小山のそれは、被教育者の自活動を根幹に据え、その目的を言語文章を理解する能力を練磨するというところに置くだけでなく、実用上の知識を啓発し、徳性を涵養するところにも置くといったような大局的立場に立っているところに大きな特徴が認められた。このような読書教授の位置付けや目的の下に読書の指導過程を構成しているが、それは予備・提示・応用と3段階の過程を設定し、被教育者が学習への興味をもって取り組めるよう配慮されている</p>
25. 小山忠雄の作文 教育論－明治30年 代作文教育探求の 基礎作業として (査読付)	単著	1986年10月	日本読書学会 読書科学 第30巻 第3号 89～98頁	<p>本論は、明治30年代において理論と実践との統一を志向する立場より国語科教授法に関する論を提唱した小山忠雄のが作文教授論について探ったものである。小山が作文に関する構成要素としている「思想感情の整理」「国語に関する知識」「排列叙述の技能」等に</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
26. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅰ）明治後期の綴り方教育論探求の基礎作業として	単著	1987年3月	関東短期大学 紀要 第31集 187～205頁	<p>ついてまず探り、次いで小学校における作文の教授の方法について探った。更に、それらが作文教授の指導過程にいかん位置付けられているかを教授実例によって探り、そしてそこから小山の作文教授の内容を明らかにしようと試みた。</p> <p>本論は、友田の綴り方教授の特色と認められる「綴り方教授の目的」と「綴り方教授の教材」との諸様相を探ったものである。換言すれば、前者の綴り方教授の目的をめぐっては、思想の開拓整理、講演談話文章作為の三者について探り、一方後者、の綴り方教材をめぐっては、思想開拓に要する教材、講演談話の練習に要する教材、文章作為の練習に要する教材の三者について具体的な内容を掲げ探ったものである。そして、これらより友田の綴り方教授の内容を明らかにしようとした。</p>
27. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅱ）	単著	1988年3月	関東短期大学 紀要 第32集 95～113頁	<p>本論は、明治後期の綴り方教育論探求の基礎作業として、友田の綴り方教授の根本原理及び友田の綴り方の特色と認められる教材論をまず探り、次いで友田の綴り方教授法の具体的顕現について探ったものである。</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
28. 友田宜剛の作文教授論の研究（Ⅰ）－軍人教育における作文教程をめぐって－（査読付）	単著	1988年9月	人文科学研究会 人文科学研究 X V 29～41頁	本論は、友田の作文教授論を対象とし、そこに示されている教育の過程や方法について探ったものである。まず友田が作文教授の目的の範疇として捉らえている思想開拓、講演談話、文章行為の三者について探り、次いで友田が作文教授法の「術」として捉えている「構想上の意匠」と「措辞上の意匠」について探り考察を加えた。
29. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅲ）その1	単著	1988年12月	西南学院大学 児童教育学論集 15巻1号 1～25頁	本論は、友田の綴り方教育論を対象とし、そこに示されている教育の過程や方法等を探ったものである。具現すれば友田の綴り方教授法の基本的立場について探り、次いで友田の綴り方教授法の展開、とりわけ綴り方教授時間内の活動として位置付けている練習法、そしてそれを踏まえた綴り方教授細目と活用法について探り、考察を加えた。
30. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅲ）その2	単著	1989年3月	西南学院大学 児童教育学論集 15巻2号 71～88頁	本論は、友田が編んでいる綴り方教授細目の活用法について探ったものである。今回は、綴り方教授細目の第2学年の第1週より4週までを取り上げそれについて分析し、考察を加えた。（71～88頁）
31. 芦田恵之助の「自己を読む」をめぐって	単著	1990年1月	西南学院大学 児童教育学論集 16巻1号 1～12頁	本論は、史的観点より価値ある立言として第1に指摘できる芦田の「自己を読む」の背景や発想の経緯について探ったものである。「自己を読む」の立言は、芦田が岡田式静座法を学んだことが近い原因となっていること、そして、樋口勘次郎の提唱した活動主義の教育が遠因になっていること等について触れた。

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
32. 戦後における我が国の自主的教育改革構想－田中耕太郎－のキリスト教的教育 行政観	共著	1990年1月	西南学院大学 児童教育学論集 16巻1号 45～66頁	本論は、田中耕太郎のキリスト教的教育行政観を探ることを通して戦後における我が国の自主的教育改革構想を整理したものである。特に今回は、田中が頑固なまでにキリスト教主義に根ざした人格の完成ということを基盤に田中の教育観、そしてそれとの関わりで教育行政について触れた。 担当部分：構想、文献収集、考察（45～66頁） 共著者：日高義質、 <u>生野金三</u>
33. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅳ）－入門期の綴り方指導をめぐって－その1	単著	1990年3月	西南学院大学 児童教育学論集 16巻2号 27～52頁	本論は、明治後期の綴り方教育法探求の基礎作業として、友田の綴り方教授論を対象として、そこに示されている教育方法等を探ったものである。具現すれば、入門期の綴り方教授法の展開、とりわけ綴り方教授法細目と活用基準を探りそれについて考察を加えた。
34. 友田宜剛の綴り方教授論の研究（Ⅳ）－入門期の綴り方指導をめぐって－その2	単著	1991年1月	西南学院大学 児童教育学論集 17巻1号 37～60頁	本論は、友田が編んでいる綴り方教授細目の活用法について探ったものである。今回は、特に入門期の綴り方教授細目の活用法（第1学年第1学期の第1週より15週と第1学年第2学期の第1週より第5週まで）を逐次述べ、それを分析し、考察を加えた。
35. 文学教材の分析とその指導法－「前野良沢」の場合－	単著	1991年3月	西南学院大学 児童教育学論集 17巻2号 1～20頁	本論は、伝記教材の指導のあり様を実践的に探ったものである。具現すれば、まず伝記の特質とその教材性について触れ、次いでそれを踏まえて伝記教材の分析の視点を掲げ、そしてそれにしたがって教材「前野良沢」の叙述を分析し、最後の指導が一方向として生徒の教材等の反応を踏まえた展開例を提示した
36. 加納友市の複式教授論の研究（Ⅰ）	単著	1991年7月	西南学院大学 児童教育学論集 18巻1号 1～31頁	本論は、加納の複式教授法を対象として、そこに示されている教育の内容や方法について探ったものである。具現すれば、加納の複式教授法の基本的な立場、つまり複式教授の三大要である教材の排列の問題や教授作業の配合の問題についてまず探り、次いで複式教授を実際に行う際の要件の問題等について探った。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
37. 明治5年より明治18年における日本教育制度についての一考察	共著	1992年3月	西南学院大学 児童教育学論集 18巻2号 35～56頁	<p>本論は、明治の学制発布より帝国大学令・小学校令・中学校令・師範学校令の公布に至るまでに、社会経済史的諸問題に規制されながら学校教育制度の確立を目指してきた教育行政史をまず概観し、そこから今日の学校教育に不易なものは何かを探ったものである。</p> <p>担当部分：構想、文献収集、考察（35～56頁）</p> <p>共著者：日高義質、<u>生野金三</u></p>
38. 子供の言葉をめぐって	単著	1992年7月	西南学院大学 児童教育学論集 19巻1号 45～62頁	<p>本論は、子供の言葉をめぐって、平成元年改訂の幼稚園教育要領と平成2年改訂の保育所保育指針にまず視点を当て、そこでの言葉の獲得に関する領域「言葉」の方向性を幼稚教育の目標、保育の目標（保育所保育指針）等により探ったものである。</p> <p>そして、子供の言葉を育てるに当たっての基本的な立場について整理した。</p>
39. 言葉の育ちを考える	単著	1992年9月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 27巻245号 65頁	<p>本論は、子供が言葉の仕組みに関心を示す例を基に、言葉の育ちについて考察を加えたものである。具体すれば、子供が絵本の中に認められる文の仕組みの要素、つまり主語に相当する語、補語に相当する語、修飾語に相当する語等に目を向け、それらを父親に問いながら、文（文章）や文字や言葉を認識していくことを考察した。</p>
40. 加納友市の複式教授論の研究（Ⅱ）	単著	1993年2月	西南学院大学 児童教育学論集 19巻2号 45～66頁	<p>本論は、我が国において複式教授を名付けて提唱した加納の複式教授の内容や方法に対する基本的立場を探ったものである。具現すれば複式教授の補語、教授案等について探り、それを分析し、考察を加えた</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
41. 新美南吉の研究 (Ⅱ)	単著	1994年2月	西南学院大学 児童教育学論集 20巻2号 115～140頁	本論は、新美南吉の代表的な作品である「ごん狐」に視点を当て、その成立事情とその世界について探ったものである。具現すれば、まず草稿「権狐」の成立の遠因や原型等をそれ以前の南吉作品や日記より探り、次いで定稿「ごん狐」との叙述の異同を対比しながら定稿「ごん狐」の世界を探った。
42. 新美南吉の研究 (Ⅲ)	単著	1994年2月	西南学院大学 児童教育学論集 21巻1号 15～39頁	本論は、教材研究の一環として教材「ごんぎつね」の1の場面の叙述の分析を行ったものである。一文毎に順次番号を付し、それぞれの文における重要語句を指摘し、そしてその意味内容や表現形式の特色を草稿「権狐」と比較しながら分析し、考察を加えた。加えて、前後の叙述との関連や他の場面との関連よりそれぞれの重要語句の位置を明らかにした。
43. 新美南吉の研究 (Ⅳ)	単著	1995年2月	西南学院大学 児童教育学論集 21巻2号 155～175頁	本論は、教材研究の一環として教材「ごんぎつね」の2の場面と3の場面の叙述の分析を行ったものである。一文毎に順次番号を付し、そしてその意味内容や表現形式の特色を草稿「権狐」と対比しながら分析し、考察を加えた。
44. 関連指導をめぐって	単著	1995年2月	西南学院大学 児童教育学論集 21巻2号 333～342頁	本論は、語彙の拡充を志向し、表現と理解とのあり様を実践的に探ったものである。特に、今回は課題解決に役立つ情報の探索（移行過程）と語彙の拡充（表現過程）の二者に視点を当てて実践を試みた。
45. 「生活科」の研究 (Ⅰ)	単著	1995年8月	西南学院大学 児童教育学論集 22巻1号 31～60頁	本論は、生活科誕生までの経緯、生活科設立の趣旨、「生活科」教科書の単元構成、「生活科」教科書教材と学習指導要領との関連等についての諸様相を探ったものである。これは、「生活科」研究を進めていく上での基礎的な作業であると考えている。

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
46. 南吉作品の民話 的メルヘン性をめ ぐって (査読付)	単著	1995年8月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 30巻280集 40～45頁	本論は、新美南吉作品の特色の一つである民話的メルヘン性について探ったものである。具現すれば、まず南吉作品の代表作と言及されている「ごんぎつね」の内容や構成や叙述の面に視点を当て、それらについて分析をしながら民話的メルヘン性についての一端を明らかにした。次いで、他の南吉作品においても、このような民話的メルヘン性が認められることを指摘した。
47. 新美南吉の研究 (V)	単著	1996年2月	西南学院大学 児童教育学論集 22巻2号 39～52頁	本論は、教材研究の一環として教材「ごんぎつね」の4の場面と5の場面の叙述の分析を行ったものである。一文毎に順次番号を付し、そしてその意味内容や表現形式の特色を草稿「権狐」と対比しながら分析し、考察を加えた。
48. 生活の言葉を育 てる	単著	1996年7月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 31巻291集 62～63頁	本論は、生活の言葉の育ちについて二者の例により考察を加えたものである。まずは、意味的には誤用の例を基に、子供の誤った言葉の表現を尊重し、そしてそれを冷静に分析することによって、子供なりの文法法則を発見したり、またそれを踏まえて対処していくことによって子供の言葉の育ちが認められたりするとした。次いで、読み聞かせの具体場面を基に、子供は今までの自分の経験の枠を破る新しい経験によって文字や言葉に対する感覚を豊かにし、文字や言葉への認識を高めていくことを明らかにした。
49. 新美南吉の研究 (VI)	単著	1996年8月	西南学院大学 児童教育学論集 23巻1号 49～64頁	本論は、教材研究の一環として教材「ごんぎつね」の6の場面の叙述の分析を行ったものである。一文毎に順次番号を付し、それぞれの文における重要語句を指摘し、そしてその意味内容や表現形式の特色を草稿「権狐」と対比しながら分析し、考察を加えた。
50. 幼児の語彙に関 する研究	共著	1997年2月	西南学院大学 児童教育学論集 23巻2号 129～145頁	一人の幼児33箇月間にわたる日記を調査対象として、そこにみられる使用語彙を分類し、学習基本語彙との比較研究を試みた。使用

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
51. 学習指導案の検討	共著	1997年8月	西南学院大学 児童教育学論集 24巻1号 43～53頁	<p>している語彙の大半は小学校国語科教科書策1学年の「理解の学習語彙」としてあげたものであることが分かった。日記に見られる語彙は、幼児の日常生活をうつつし出す書き言葉として捉えることができると同時に、日記をつけるために語彙を形式化、整理するあり方をうかがわせるものであることに言及した。</p> <p>担当部分：構想、計画、資料収集、考察（129～145頁） 共著者：生野桂子、<u>生野金三</u></p>
52. 総合学習の研究	共著	1998年2月	西南学院大学 児童教育学論集 24巻2号 36～45頁	<p>カリキュラム統合化の必要性に触れ、理論研究を行った。詳述すれば、言語と也の全教科とを切り離さず総合的なカリキュラムを編成することをピアジェ著「思考における言語の役割」、ヴィゴツキー著「思考と言葉」、ハリデー著「言語教育と言語学習」等の各理論に基づき主張した。リテラシーの発達には総合的で実際の場面において促されることから部分的な取り立て指導よりも全体を重視した教育プログラムが必要であることを述べた。</p> <p>（36～45頁） 担当部分：構想、文献収集、考察、まとめ 共著者：生野桂子、<u>生野金三</u></p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
53. 子供の言葉の育ちをめぐって	単著	1998年3月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 33巻311集 60～61頁	本論は、絵本作りを基に子供の言葉による想像力、構想力の育ちと、生活の場における子供の言葉の育ちについて触れたものである。前者は、現実の世界を土台にしながらも現実と遊離して作成した絵本（子供が）を基に、子供の思考力の広がりという点より考察を加えた。一方、後者は、夫婦の会話の内容を十分に理解しないまま、自分の思いを必死に訴えている場面を基に子供の言葉の育ちについて考察を加えた。
54. 国語科教材研究法	単著	1998年7月	西南学院大学 児童教育学論集 25巻1号 101～135頁	本論は、国語科教材研究法の開発を志向して、まず国語教材の特質について整理し、最後に国語教材研究の方法的類型の特色について考察したものである。国語教材研究の方法論の類型とその特性については、飛田多喜雄の論に考察を加えた。
55. 指導技術をめぐって	共著	1999年3月	西南学院大学 児童教育学論集 25巻2号 59～94頁	本稿は、技術とはある目的のもとに道具を使用する行為の形態であり、伝承・伝播される文化財として扱うべきであるとする立場に立ち、教授における技術のあり方について考察を加えたものである。授業実践のための学習指導案を取り上げ考察を行い、教師の単元・題材観・指導観・系統観との関わりにおいて指導技術を把握することにより、指導技術のより効果的なあり方が見えてくると結論した。 担当部分：「技術の概念をめぐって」「国語科教育における技術」「国語科教育における指導術」（59～68頁）「資料」（82～94頁） 共著者：生野桂子、 <u>生野金三</u>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
56. ラングとパロールをめぐって	共著	1999年6月	西南学院大学 児童教育学論集 26巻1号 69～106頁	<p>子供の生活的手段が希薄化し、家庭の教育力低下が言われる現代の生活にあつて、技術、技能を伝える言語の貧しさが問題となっている。本稿はこの問題意識に立ち、ラングとパロールとをめぐって教材解釈を試みた第1報である。ソシユールによれば、言語現象は言語活動であり、その社会的側面である両者の関わりは意味の問題を提起する。これを踏まえ、教材解釈、教授行為、子供の学習活動における意味の展開を分析することを試みた。具体的実践における意味の展開の考察という課題が残った。</p> <p>担当部分：「理解における自由と制約」「心と詞」「ラングとパロール」（69～90頁）</p> <p>共著者：生野桂子、<u>生野金三</u></p>
57. 横断的・総合的指導内容・方法開発研究をめぐって	共著	2000年3月	九州総会学習の会 平成10・11文部省 教育課程における 教内容・方法の開 発研究成果報告書	<p>本研究は、文部省より教育課程における教育内容・教育方法開発研究の委嘱を受け、総合学習のあり様について探ったものである。まず、総合的な学習の背景、そのタイポロジー、そのあり様について触れ、次いでその具体例を実践に探り、最後にそれを踏まえて大学における「総合学習」シラバスを作成した。</p> <p>担当部分：「横断的・総合的な学習の試み」（3～12頁）、「総合的な学習の試み」（21～27頁）、「総合学習のシラバス」（35～38頁）</p> <p>共著者：内林秀人、下田好行、生野桂子、豊澤弘伸、<u>生野金三</u></p>

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
58. 「特別活動」の教育内容・方法に関する開発研究	共著	2000年3月	信州教育研究会 平成10・11年文部 省教育課程におけ る教育内容・方法 の開発研究成果報 告書	<p>本研究は、文部省の助成を得て教育課程における効果的な教育内容・方法のあり様について探ったものである。特に特別活動を指導する実践的指導力の養成を目指して、特別活動の理念、そしてそれを踏まえて特別活動授業構成上の理念や教育内容について整理したものである。</p> <p>担当部分：「特別活動と総合的な活動」(21～25頁)</p> <p>共著者：下田好行、堀井啓幸、<u>生野金三</u></p>
59. 総合演習の研究	単著	2000年9月	西南学院大学 児童教育学論集 27巻1号 17～44頁	<p>本論は、教員に求められている資質能力との関わりから教育課程の教育内容に新設された「総合学習」の生成の背景についてまず探り、次いでそれと関わる内容である「横断的・総合的な学習」の背景や特色について探った研究である。「横断的・総合的な学習」をめぐっては、特別活動等との関わりを重視しながら、いかに課題を探究し、学び方を学ばせるかについて触れた。</p>
60. ことばを育てる場の構成	単著	2000年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 35巻343集 42～43頁	<p>生活力としての言葉は、人との関わり、ものとの関わりの中で体験や活動を通して育つのであるが、本稿は、指導者である保育士が幼児に対し言葉の育ちを保證するような活動の場を構成していくことの重要性について触れたものである。</p>
61. アメリカにおける総合学習の展開	共著	2001年3月	西南学院大学 児童教育学論集 27巻2号 1～44頁	<p>本論は、我が国における「総合的な学習の展開」にあり様を探る上で注目されているアメリカのミドル・スクールにおける総合学習の類型について触れ、次いでそのカリキュラムの展開の様相を課題づくりの面から整理したものである。</p> <p>担当部分：「アメリカのミドル・スクールの現状と教育課程」(2～4頁)、「アメリカの総合学習」(5～7頁)、「ミドル・スクールにおける統合的カリキュラムの展開」(7～13頁)</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>、磯望、別府佳代子</p>

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
62. 表現力をめぐって	単著	2001年3月	西南学院大学 児童教育学論集 27巻2号 45～55頁	本論は、学習指導要領における表現（特に作文）に視点を当て、その成立過程における能力を分析し、考察を加えたものである。「取材」→「構想」→「叙述」→「推敲」という文章表現の各過程に即する指導事項を分析し、整理することによって文章を作成する際の基礎となる文章作成技能の大体を見出すことができた。
63. 「一つだけ」の意味をめぐって (査読付)	単著	2001年3月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 36巻347集 62～67頁	本論は、教材「一つの花」における「一つだけ」の意味内容について分析し、考察を加えたものである。まず、「一つだけ」という同じ言葉の意味は、3人の登場人物の使用状況や使用目的等を踏まえながら思索することで言葉の伝える具体的な内容を捉えることが可能であるととした。
64. 教材研究法の開発をめぐって (査読付)	共著	2001年4月	日本読書学会 読書科学 第45巻第1号 34～42頁	国語教材研究法の開発を志向して、まず国語教材研究の考え方や意義について触れ、そしてそれを踏まえて実践可能な国語教材研究の方法的類型を整理し、その特色について触れた。これらを踏まえて教材「ごんぎつね」の基礎的・素材的研究を具体的に行った。教材「ごんぎつね」の基礎的・素材的研究をめぐって、内容的な面では作品の償いより求愛への構図によって得られる感概や感動は、読み手の思想や心情に働きかけ、人間の成長に関わり、そして言表的な面では冒頭の入り方、人物の造形・紹介の仕方、末尾の結び方等の文章構成の特色が児童の認識や技能等の形成と発展に寄与するであろうということが明らかになった。 担当部分：「国語教材研究の意義」「国語教材研究の方法的特色」「教材『ごんぎつね』の研究」（34～40頁） 共著者：生野桂子、 <u>生野金三</u>
65. 幼児の「文字指導」をめぐって	単著	2002年4月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 36巻360集 66～67頁	本論は幼児教育における文字教育のあり様について触れたものである。具現すれば幼児の読み書きの実態、幼稚園や保育所で文字指導が行われている実態等により幼

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
66. 幼児の文字指導をめぐって～幼児の日記を通して～ (査読付)	単著	2003年3月	日本家庭教育学会 家庭教育研究8 45～51頁	<p>児教育における文字指導を積極的に検討していく必要があるとした。</p> <p>本論は、幼稚園や保育所における幼児の文字指導のあり様について触れたものである。まず、幼児の文字指導の現状について触れ、次いで幼児の読み書きの実態を掲げ、そこから幼稚園や保育所では、もっと積極的に文字指導を行うよう検討するべきであるとした。</p>
67. 教材「ごんぎつね」の素材的研究 (査読付)	単著	2003年3月	日本教材学会 教材学研究 第14号 9～12頁	<p>本論は、国語教材研究の方法的類型の特色として、飛田多喜雄が掲げている三者について触れ、そしてその中の一つである「国語教材の基礎的・素材的研究」について、教材「ごんぎつね」を対象として、草稿「権狐」との対比によってその教材化を試みたものである。そして、作品「ごんぎつね」が蔵する価値について内容的、言表的観点より考察を加えた。</p>
68. ポートフォリオ評価の意義 (査読付)	単著	2003年6月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 38巻372集 54～59頁	<p>本論は、ポートフォリオ評価を授業に導入するに当たって、そこには如何なる意義が存在するか、その導入の基本的立場について触れたものである。まず、書類挟みに学習者の学習過程や学習の成果を具体的に蓄積して、それを教育評価の資料として生かしていこうと意図してポートフォリオ評価が誕生したことについて触れ、そしてその背景には教育理論や評価論が存在するとした。次いで、「アセスメントとしての評価観」「真正評価とパフォーマンス評価」等の観点よりポートフォリオ評価の重要性について触れ、ポートフォリオ評価を導入した授業を構想し、実践することによって授業の改善に生かす評価がみえてくるとした。</p>
69. 学習者のメタ認知能力を促すポートフォリオの再生についての研究 (査読付)	共著	2003年9月	信州大学教育学部 教育実践研究 第4号 1～8頁	<p>本論では、学習者にポートフォリオの再認識を行わせる（科目「読書と豊かな人間性」において）ことによって、学習者のメタ認知能力を促し、そこから再生したポートフォリオの意義と課題を</p>

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
70. 幼児の言葉から 道徳性の芽生えを 探る (査読付)	単著	2004年3月	日本家庭教育学会 家庭教育研究9 45～50頁	<p>明らかにすることを目的とした。まず、ポートフォリオの評価をめぐっての基本的な考え方について論じ、次いで学校図書館司書教諭科目「読書と豊かな人間性」で取り扱った内容について触れ、更に「読書と豊かな人間性」におけるポートフォリオの実践の様相を掲げ、最後にポートフォリオの意義と課題について論じた。(1～8頁)</p> <p>共著者：興幸雄、<u>生野金三</u>、下田好行</p> <p>本論では、収集した幼児の言葉(「保育内容の研究(言葉)」を受講している学生が収集)より学生が道徳性の芽生えをいかに探っているかその様相について触れた。まず、「道徳性の芽生えを探るに当たっての基本的な考え方」について触れ、次いで「収集した言葉とその分析例」を述べ、最後にまとめ(分析例から幼児は日常生活や保育所生活において、他者との様々な関わりの中で道徳性を培っていることが分かった)と課題について触れた。</p>
71. 教材「ごんぎつね」の素材的研究 (2) (査読付)	単著	2004年3月	日本教材学会 教材学研究 第15号 17～20頁	<p>本論は、教材「ごんぎつね」の素材的研究を踏まえ、教材「ごんぎつね」を対象として、草稿「権狐」との対比(就中、今回は草稿「権狐」の四と五の場面について)によってその教材化を試みたものである。そして、教材「ごんぎつね」の蔵する陶冶価値、構成や表現の特徴等について理解を深めることができた。</p>
72. 「授業を見る目」の育成の試み (査読付)	単著	2004年4月	日本読書学会 読書科学 第48巻第1号 11～19頁	<p>本論は、小学校国語科の模擬授業に視点を当て、その授業記録を基に授業設計力や授業実践力等の分析や考察を通して「授業を見る目」の育ちを探ったものである。模擬授業を行った学生は「教師の立場」に「児童の立場」を重ねながら授業を捉え、一方模擬授業を児童役として体験した学生は「児童の立場」の「教師の立場」を重ねながら授業を捉えていることが明らかになった。このように模擬授業において立場を重ね合わせる</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
73. ブックトークを指導する実践的力量的の養成の試み（査読付）	単著	2004年8月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 39巻388集 46～51頁	<p>という体験が可能となり、そこからは学生の「授業を見る目」育ちの一端が認められた。</p> <p>本論は、ブックトークを指導する実践的力量的の養成の試みについて論じたものである。まず、ブックトークの基本的な考え方（ブックトークとは、ブックトークの準備）について触れ、次いで小学校第4学年国語の授業の発展としていかにブックトークの実践を試みたかについて論じた。最後に、この一連の作業を通して受講者である学生のブックトークを指導する際の実践的力量的はいかに育成されたかについて触れた。</p>
74. 情報社会における学校図書館の活性化に関する研究	共著	2005年2月	東京情報大学 研究論集 Vol.8 No.2 51～58頁	<p>本論は、子供達の生きる力を育むための学校図書館のあり様を探ったものである。具現すれば、まず学校図書館及び子供の読書活動の推進に関する法律の分析を行い、次いで読書を活発に推進している学校の事例を調査し、分析したものである。</p> <p>担当部分：学校図書館法・子どもの読書活動推進に関する法律の分析（53～54頁）</p> <p>共著者：齊藤浩一、石崎忠純、鈴木伸一、<u>生野金三</u></p>
75. NDCによる図書分類の基礎（その1）	共著	2005年9月	白鷗大学論集 第20巻第1号 67～109頁	<p>本論は、学校図書館司書メディアの組織化に必要な日本十進分類法（Nippon Decimal Classification：NDC）による図書分類の基礎を探ったものである。具現すれば「図書分類の意義」「標準分類表」「日本十進分類表（NDC）の構成」等を探り、図書の分類記号の付与の基礎について触れたものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「分類について」（69～84頁）</p> <p>共著者：中谷陽子、<u>生野金三</u></p>
76. 「ごんぎつね」の学習指導のために	共著	2005年10月	財団法人 言語教育振興財団	<p>本論は、教材「ごんぎつね」の四、五の場面に視点を当て、それと草稿との対比によって、構成の問題、表現上の問題、文末の問題等を取り上げ、そこにおける主人公であるごんが兵十と加助との間にどう関わるのか、またそれをど</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
77. 特別支援教育のあり様をめぐって（その1）	共著	2005年12月	白鷗大学 発達科学部論集 第2巻第1号 189～216頁	<p>う位置付けるか等について触れたものである。</p> <p>担当部分：「夜話の会話」を中心に（42～45頁）</p> <p>共著者：倉澤栄吉、桑原隆、森久保安美、<u>生野金三</u></p> <p>本論は、特殊教育（障害の種類や程度に応じて盲・聾・養護学校や特別学級といった特別な場で指導を行うことにより、手厚くきめ細かい教育を行うことに重点）から特別支援教育（特別教育の対象になっている幼児児童生徒に加え、通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症等の児童生徒に対しても適切な指導及び支援を行う）に至った経緯について触れ、そして特別支援学校の学習指導要領を基に教育課程の基準、教育課程の編成と実施、特別支援教育の指導法の基礎等について考察を加えたものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「特別支援教育の展開と様相」（189～197頁）共著者：中谷陽子、北村好史、<u>生野金三</u></p>
78. 特別活動の研究（その1）	共著	2005年12月	白鷗大学 発達科学部論集 第2巻第1号 21～34頁	<p>本論は、特別活動の歴史やその経緯を振り返り、その特色とその折々に期待された特別活動の役割について探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「『自由研究』からの発足」（21～26頁）「おわりに」（33～34頁）</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>、中谷陽子、北村好史、生野桂子</p>
79. 道徳性の芽生を探る	単著	2006年1月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 第41巻405集 58～59頁	<p>本論は、受講生である学生が収集した言葉より道徳性をいかに探っているか（領域「人間関係」との関わりより）、その分析例に考察を加えたものである。</p>
80. 関連指導をめぐって	共著	2006年3月	白鷗大学論集 第20巻第2号 145～164頁	<p>本論は、関連指導の重要性を踏まえ、読みの学習によって理解した教材文の表現形式や表現方法等を作文に活用する表現法習得のあり様を具体的実践例を基に探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「単元設定の課題」（145～149頁）</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>、北村好史</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
81. 読書教育論について	共著	2006年3月	白鷗大学論集第20巻第2号 123～143頁	<p>本論は、読書指導の重要性に鑑み、読書の意義や目的、そして読書指導の展開の様相を探り、それを基に読書教育のあり様について触れたものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「読書教育論」（123～135頁）共著者：<u>生野金三</u>、豊澤弘伸</p>
82. 特別支援教育のあり様をめぐって（その2）	共著	2006年3月	白鷗大学論集第20巻第2号 141～176頁	<p>本論は、ノーマライゼーションの理念（障害のあるものも障害のないものも同じように社会の一員として社会に参加し、自立して生活することのできる社会を目指す）に基づく交流活動、加えてノーマライゼーションの理念を実現するための理解啓発教育の基礎理論とその実際について考察を加えたものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「交流活動について」（141～146頁）共著者：<u>生野金三</u>、北村好史、栗原茂樹、中谷陽子</p>
83. 教育課程の研究	共著	2006年3月	白鷗大学 発達科学部論集 第2巻第2号 49～67頁	<p>本論は、戦後教育課程改革をめぐって、まず教育課程の意義の史的変遷を概観し、そしてそれを踏まえて望ましい教育課程の編成のあり様を志向し、教育課程の基準のねらいの内容等について探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「教育課程の基本的な立場」（49～59頁）共著者：<u>生野金三</u>、北村好史、生野桂子</p>
84. 教師の力量形成に関する研究（その1）	共著	2007年3月	白鷗大学 発達科学部論集 第2巻第2号 121～140頁	<p>本論は、教員に求められている資質能力の育成を志向し、教職に関する模擬授業をめぐって、受講者である学生の教師としての力量形成にそれがどのように関与しているかその様相を探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「模擬授業の方法と内容」「授業観察の視点」（121～129頁）共著者：<u>生野金三</u>、金田健史、斉藤武利、齊藤一人、内山須美子、中谷陽子、北村好史</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
85. 特別活動の研究 (その2)	共著	2006年10月	白鷗大学論集 第21巻第1号 101～118頁	<p>本論は、昭和33年に改訂された小学校と中学校の学習指導要領と昭和43年に改訂された小学校の学習指導要領、昭和44年に改訂された中学校の学習指導要領に視点を当て、そこにおける特別活動の様相を探ったものである。特に昭和43年改訂の学習指導要領と昭和44年学習指導要領においては、いずれもその内容を特別活動の一領域として、その中に学級活動と学級指導とを位置付け、特別活動が充実してきたことについて触れた。学級活動・学級指導は生徒指導の核となる時間である。担当部分：「はじめに」「戦後の特別活動」(101～114頁) 共著者：生野金三、北村好史、中谷陽子、生野桂子</p>
86. 学級活動の研究	共著	2006年10月	白鷗大学論集 第21巻第1号 163～184頁	<p>本論は、特別活動における「A学級活動」の重要性に鑑み、清掃指導、避難訓練、長期休業の事前指導、チャイム着席の指導、お菓子の指導、給食の指導等の場面における指導のあり様について触れたものである。 担当部分：「はじめに」「学級活動の成立と展開」(163～173頁)</p>
87. 総合学習の導入に 関わる課題	共著	2006年12月	白鷗大学 発達科学部論集 第3巻第1号 153～169頁	<p>本論は、「生活科」や「総合的な学習の時間」という総合的な展開を主とするいわゆる総合学習についてその導入の経緯を検討し、教育的意義を確認しつつ、現在の「総合的な学習の時間」の課題(評価の明確化等)について触れたものである。 担当部分：「はじめに」「総合学習の導入の経緯」(153～161頁) 共著者：生野金三、北村好史</p>
88. 教育課程の研究 (その2)	共著	2006年12月	白鷗大学 発達科学部論集 第3巻第1号 171～182頁	<p>本論は、教育課程の意味を概観し、そしてそれを踏まえて中学校における教育的課程の今日的課題(「指導者」すなわち「教職員」が参画し、「教職員」を育てる場として教育課程編成を機能的に捉え直すことが急務等)について探ったものである。</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
89. 乳幼児言葉の学び (その1)	共著	2006年12月	白鷗大学 発達科学部論集 第3巻第1号 187～216頁	<p>担当部分：「はじめに」「教育課程の意義」「教育課程が目指す教育実践の方途」(171～176頁) 共著者：<u>生野金三</u>、北村好史、生野桂子</p> <p>本論は、乳幼児の言語獲得のあり様を志向し、言語環境のあり方、乳児の発達の様相と大人の役割、幼児の文字獲得の方法等をめぐって具体的展開を取り上げそれぞれについて論及したものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」(187頁) 「幼児の言葉の学習」(195～214頁) 共著者：<u>生野金三</u>、中谷陽子、高橋美樹、北村好史、生野桂子</p>
90. 総合演習の研究 (その1)	共著	2007年3月	白鷗大学論集 第21巻第2号 197～216頁	<p>本論は、教育職員免許法において新設された「総合演習」のあり様を模擬授業によって実践的に探ったものである。具現すれば、課題発見の活動の様相をめぐって、全体の共通テーマのもとにグループでいかにそれを焦点化していくかという課題発見の過程を実践的に探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「総合演習の模擬授業の内容と方法」(197～205頁) 共著者：<u>生野金三</u>、北村好史、中谷陽子、生野桂子</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
91. ブックトークの実践的研究	共著	2007年3月	白鷗大学論集第21巻第2号 217～245頁	<p>本論は、ブックトークを指導する実践的力について触れたものである。まず、ブックトークを実践するに当たっての基本的な考え方について触れ、次いで国語科の授業の発展としてそれをいかにブックトークの実践を試みたかについて論じた。</p> <p>担当部分：「はじめに」「ブックトークの基本的な考え方」「ブックトークの実践」（217～239頁）</p> <p>共著者：生野金三、豊澤弘伸、北村好史、中谷陽子</p>
92. 特別活動の研究（その3）	共著	2007年3月	白鷗大学 発達科学部論集 第3巻第2号 67～85頁	<p>本論は、昭和52年に改訂された小学校と中学校の学習指導要領（4次改訂）に視点を当て、そこにおける特別活動の様相を探ったものである。ゆとりある充実した学校生活を標榜した教育課程において、特別活動の持つ積極的な意義を再認させられたこと、その授業時数の提示・増加等、一層の充実が図られたこと等について触れた。特別活動の中の「学級指導」は生徒指導の機能か集約的に発揮される時間である。</p>
93. 「授業を見る目」の育成	共著	2007年3月	白鷗大学 発達科学部論集 第3巻第2号 26～40頁	<p>本論は、教職科目「運動表現」の模擬授業によって授業を見る目の育成を探ったものである。模擬授業によって、受講者である学生</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
94. 「授業を見る目」 の育成 (査読付)	共著	2007年3月	日本教材学会 教材学研究 第18巻 113～120頁	<p>は教える立場と学ぶ立場との両者を体験することができ、そこからは学生の授業を見る目の育ちが認められた。</p> <p>担当部分：「はじめに」(26～29頁) 「『運動遊び』模擬授業の基本的な考え方」(33～34頁)</p> <p>共著者：生野金三、内山須美子</p> <p>本論は、小学校国語科の模擬授業に視点を当て、授業を見る目の育成を志向し、授業記録とその分析や考察に重きを置いて論を展開したものである。模擬授業によって、学生は教える立場と学ぶ立場との両者を体験することができ、そこからは学生の授業を見る目の育ちが認められた。</p> <p>担当部分：「はじめに」「国語科模擬授業の考え方」「模擬授業の観察記録とその分析」「『授業を見る目』の育成の試み」(113～120頁)</p> <p>共著者：生野金三、中谷陽子、北村好史、生野亜沙子</p>
95. 総合演習の研究 (その2)	共著	2007年9月	白鷗大学論集 第2巻第1号 97～121頁	<p>本論は、教育職員免許法において新設された「総合演習」のあり様を模擬授業によって実践的に探ったものである。具現すれば、課題探究過程の最後に位置する「整理・発表」の段階における指導のあり様を実践的に探ったものである。学習者である学生は、教師にとって授業設計力や授業実践力が必要であること一端を認識することができる。</p> <p>担当部分：「はじめに」「総合演習の実践展開」(97～118頁)</p> <p>共著者：生野金三、北村好史、中谷陽子、生野桂子</p>
96. 特別活動の研究 (その4)	共著	2007年11月	白鷗大学 発達科学部論集 第1巻第1号 101～118頁	<p>本論は、平成元年に改訂され、小学校と中学校の学習指導要領に視点を当て、そこにおける特別活動の様相を扱ったものである。学</p>
				<p>校・中学校のいずれも特別活動において「学級活動」が新設され、それぞれ充実が図られると同時に小学校と中学校との関連を密にす</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
97. 読書へのアニメーションに関する研究	共著	2007年11月	白鷗大学 発達科学部論集 第1巻第1号 123～144頁	<p>る改善がなされることについて触れた。 担当部分：「はじめに」「戦後の特別活動」（101～113頁） 共著者：生野金三、中谷陽子、北村好史、生野桂子</p> <p>本論は、読書へのアニメーションを指導する実践的指導力について触れたものである。まず、読書へのアニメーションを完成するに当たって基本的な考え方について触れる。次いで、学習者に対して読書への興味を持たせ、学習者の読む力を伸ばす方法である。戦略「ダウトをさがせ」の実践を試みた。それを基に、実践的指導力の一端について触れた。担当部分：「はじめに」「読書へのアニメーションの基本的な考え方」「読書へのアニメーションの実践」（123～144頁） 共著者：生野金三、中谷陽子、生野桂子、北村好史</p>
98. 実践的指導力の養成の試み (査読付)	単著	2007年12月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 第42巻428集 52～57頁	<p>本論は、教職科目「国語科教育法」の授業において模擬授業を導入し、学習指導案や発問計画、授業記録等を基に教員としての実践的指導力の基礎が如何に育成されたかを探ったものである。模擬授業によって、受講生である学生は実践的指導力の要素である授業を設計する力や授業を実践する力等の一端を指摘し、そのような力量を教師は身に付けておく必要があると指摘する。</p>
99. 特別活動の研究 (その5)	単著	2008年3月	白鷗大学論集 第23巻第2号 197～216頁	<p>本論は、教師に求められている資質能力(就中、実践的指導の基礎の育成)を志向し、教職科目「特別活動の研究」において受講者である学生の「授業を見る目」の育成を模擬授業を基に探ったものである。</p>
100. 国語科教育法	単著	2008年5月	白鷗大学 教育学部論集 第2巻第1号 37～56頁	<p>本論は、教職科目「国語科教育法」において模擬授業を試み、そこで受講者である学生の教師としての力量(授業設計力や授業実践</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
101. 総合演習の研究 (その3)	単著	2008年9月	白鷗大学論集 第23巻第1号 1～21頁	<p>力等) がいかに形成されたかを探ったものである。</p> <p>本論は、教育職員免許法において新設された「総合演習」のあり様を模擬授業によって実践的に探ったのである。具現すれば、課題探究の最初の段階に位置する「課題発見」の段階における指導のあり様を探ったものである。</p>
102. 学習指導要領の研究～経験主義の教育課程をめぐって～	共著	2008年9月	白鷗大学論集 第23巻第1号 23～49頁	<p>本論は、教育課程改革をめぐって、経験主義の教育課程と言及されている昭和22年改訂の学習指導要領（一般編〈試案〉）と昭和26年改訂の学習指導要領（一般〈試案〉）との両者に視点を当て、教育課程を構成（編成）する際の要素、つまり「目標の設定」「学習経験の構成」「学習経験を組織する際の考慮事項」等を探り、考察を加えたものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「経験主義の学習指導要領（小学校）」（23～30頁、32～33頁）「経験主義の教育課程の編成」（41～46頁）</p> <p>共著者：中谷陽子、生野桂子、北村好史、<u>生野金三</u></p>
103. NDCによる図書分類の基礎 (その2)	単著	2008年11月	白鷗大学 教育学部論集 第2巻第2号 223～252頁	<p>本論は、学校図書館司書メディアの組織化に必要な日本十進分類法（Nippon Decimal Classification：NDC）による図書分類の基礎を踏まえ、そして「分類作業の手順」「分類記号の付与」等を確認し、更にそれらを基に図書の分類を試みたのである。そして、分類記号の図書の分類記号の付与の基礎要件の概要を整理した。</p>
104. 幼児の道徳性の芽生え	単著	2008年12月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 43巻440集 66～67頁	<p>本論は、受講生（「保育内容の研究（言葉）」の）である学生が収集した言葉より道徳性の芽生えをいかに探っているか、その分析例について考察を加えたものであ</p>
				<p>る。分析例を見ると、砂場で遊んでいるときの友達の遣り取りからは、善悪の判断、思いやり等の道徳性の芽生えが培われている</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
105. 「授業を見る目」の育成～「教育実習事前事後指導」における学習指導案の作成を通して～	単著	2009年3月	白鷗大学論集第23巻第2号 115～149頁	<p>ことが確認された。斯様な内容について触れた。</p> <p>本論は、教職に関する科目「教育実習事前事後指導」において、模擬授業を視野に置いた授業設計を試み、そしてそれを基に受講者である学生の「授業を見る目」の育ちをの様相を探ったのである。受講者は、模擬授業の設計において「指導の研究」に関する内容や「教材研究」に関する内容等の一端を指摘し、そのような力量を教師は身に付けておく必要があるとしている。</p>
106. 「教材一つの花」の研究～実践的指導力の体得の育成を志向して～	共著	2009年3月	白鷗大学論集第23巻第2号 151～174頁	<p>本論は、教材「一つの花」の授業設計を試み、それを通して如何なる実践的指導力が必要かを探ったものである。具現すれば、まずは指導者が「素材」に正対し、そして学習者を視野に入れながら教材が内包する教育的価値を捉え、それを学習指導要領との関わりで学習者に体得せしめる読みに関する能力、言語に対する知識・理解・技能等を整理し、そこから実践的指導力の一端である授業設計力について探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「教材『一つの花』の教育的価値」（151～154頁）「おわりに」（173～174頁）</p> <p>共著者：北村好史、<u>生野金三</u></p>
107. 学習指導要領の研究～新旧学習指導要領国語科の対比とその考察（小学校、中学校）～	共著	2009年3月	白鷗大学論集第23巻第2号 325～381頁	<p>本論は、国語科の学習指導要領が如何なる内容に改訂されたのかを新旧の学習指導要領を基に探ったものである。その結果、国語科の学習指導要領においては、言語活動の充実、伝統的な文化の重視、更にはPISA型読解力の考え方の反映等といったことが中核に据えられて改訂されていることが明らかになった。</p> <p>担当部分：「はじめに」「国語改</p>
				<p>訂のポイント」「小学校学習指導要領に係る新旧対照表」（325～356頁）「おわりに」（380～381頁）</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>、北村好史</p>

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
108. 特別活動の研究 （その6）その1～ 実践的指導力の育 成を志向して～	単著	2009年5月	白鷗大学 教育学部論集 第3巻第1号 325～382頁	本論は、教員に求められている 資質能力の育成（就中実践的指導 力の基礎の育成）を志向して、教 職に関する科目である「特別活動 の研究」において授業を設計し、 それを基に模擬授業を試み、授業 記録、学習指導案、発問計画等を 基に受講者である学生の教員とし ての実践的指導力の基礎が如何に 育成されたかを探ったものである。 今回は、とりわけ実践的指導 力の中の授業設計力を中核に据え て、その様相を探った。受講者で ある学生は、授業設計力をめぐっ て、「学習指導案」「学習者の実 態把握」「発問計画」「板書計 画」等の重要性を指摘している。
109. 学習指導要領の 研究（その2）～新 旧学習指導要領特 別活動の対比その 考察（小学校、中 学校）	共著	2009年5月	白鷗大学 教育学部論集 第3巻第1号 89～106頁	本論は、特別活動の学習指導要 領が如何なる内容に改定されたの かを新旧の学習指導要領を基に探 ったものである。その結果、特別 活動の学習指導要領においては、 人間関係の育成の充実、発達段階 に即した指導の充実、言語活動 の充実等といったことが中核に据 えられて改訂されていることが明 らかになった。 担当部分：「はじめに」「特別活 動のポイント」「小学校学習指導要 領に係る新旧対照表」「おわりに」（89～ 106頁）共著者： <u>生野金三</u> 、北村好 史、中谷陽子
110. 生活の言葉を育 てる	単著	2009年12月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 44巻452集 66～67頁	本論は、平成20年に改訂された 幼稚園教育要領や保育所保育指針 における領域「言葉」の意図とす るところ、つまり子供の立場（生 活）を尊重し、言葉の育ちを重視 した語用論の立場にあることにつ いて触れた。次いで、生活の言葉 を育てるために子供の言葉を如何 に受け止めるかについてのあり様 について触れた。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
111. 道徳教育の研究～道徳性をめぐって～	単著	2010年1月	埼玉学園大学紀要第9号 81～90頁	本論は、戦後における教育制度改革と関連付け、昭和33年の「小学校学習指導要領 道徳」と昭和43年改訂の「小学校学習指導要領 道徳」と昭和52年改訂「小学校学習指導要領 道徳」等に視点を当て、そこにおける特設道徳の特色を探った。いずれも道徳性の要素である「道徳的判断力」「道徳的心情」「道徳的態度、道徳的意欲」等が学習指導要領に掲げられていることが明らかになった。
112. 学習指導要領の研究（その3）～新旧学習指導要領道徳の対比その考察（小学校）～	共著	2010年1月	埼玉学園大学紀要第9号 293～299頁	本論は、道徳の学習指導要領が如何なる内容に改定されたのかを新旧の学習指導要領を基に探ったものである。その結果、道徳の学習指導要領においては、「道徳の時間」が道徳教育の「要」として、そして「要」の「要」として「道徳教育推進教師」を中核にした指導体制の充実、魅力的な教材の開発、言語活動を生かし考えを深める「道徳の時間」等が中核に据えられて改訂されていることが明らかになった。 担当部分：「はじめに」「道徳改訂のポイント：小学校」「小学校学習指導要領に係る新旧対照表」（293～296頁） 共著者：生野金三、北村好史、生野桂子
113. 総合演習の実践的研究	共著	2010年1月	埼玉学園大学紀要第9号 91～105頁	本論は、総合演習のあり様を実践的に探ったものである。今回は人類に共通するテーマに等について教員を志願する者の理解を深め、その視野を広げることを志向し、課題発見の様相、課題探究とその成果の様相等を分析、総合演習のあり様を探ったものである。 担当部分：「はじめに」「総合演習の実践展開」（91～96頁） 共著者：生野金三、中込雄治、長友大幸
114. 国語科授業観形成の試み―「教育実習事前事後指導」における学習指導案の作成を通して（査読付）	単著	2010年3月	日本教材学会教材学研究第21巻 123～132頁	本論は、教員に求められている実践的指導力の基礎の育成を志向し、教職に関する科目である「教育実習の事前事後指導」において授業設計を試み、そこにおいて受講者である学生の授業観が如何に形成されたか否かを探ったもので

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
115. 領域「言葉」の研究	単著	2010年12月	埼玉学園大学紀要第10号 353～358頁	<p>ある。受講者である学生は、指導する対象である学習者をより意識して授業を設計している。それは、受講者である学生が「学習の実態を踏まえた目当て」「学習者の実態把握のワークシート」「学習への興味や関心を喚起する発問」「学習への意識の高揚」等と「児童の立場」を念頭に置いて授業を設計しているからである。教える立場と学ぶ立場との両者の視点で授業を捉えことになる故、ここからは、指導観、児童観、あるいは教材観等の授業観の一端が形成されているといえよう。</p> <p>本論は、まず就学前教育制度（幼稚園教育制度、保育所制度）を概観（就中、平成元年改訂の幼稚園教育要領と平成2年改訂保育所保育指針以降の内容を）し、そしてそこにおいてに求められる資質能力の育成を志向し、言葉の獲得に関する領域「言葉」の内容や指導の方向性を考究したものである。</p>
116. 教員に求められる資質能力の研究～実践的指導力の育成をめぐる（その1）～	単著	2010年12月	埼玉学園大学紀要第10号 125～137頁	<p>本論は、教員に求められる資質能力の様相を探り、その中核をなす実践的指導力の基礎の育成のあり様を教職に関する科目である「教育実習の事前事後指導」において授業設計を試み、それを基に探ったものである。</p>
117. 教職実践演習の実証的研究—教員としての資質能力の基礎の育成を志向して—	共著	2010年12月	埼玉学園大学紀要第10号 179～191頁	<p>本論は、現在における喫緊の課題である「教職実践演習」のあり様を実践的に探ったものである。まず、中央教育審議会の教育制度改革を概観し、そしてその中で「教職実践演習」の中核となるの教員の資質能力の育成を取り上げ、科目「初等科教育法」において資質能力に内包される授業設計力や授業実践力等の実践的指導力の基礎の育成のあり様を探ったものである。</p> <p>担当部分：「はじめに」「実践的</p>

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
118. 小学校教員養成の課題	単著	2011年3月	実践女子大学 生活文化フォーラム 第15号 133～143頁	指導力の育成—国語科の模擬授業を通して— (179～185頁) 共著者：生野金三、中込雄治、長友大幸 本論は、小学校教員養成の課題をめぐって、「現在の小学校教育の現場における諸問題と審議会答申の方針」「本学科の小学校教員養成で目指す方向性」「女性教員の能力を十分に発揮するための示唆」等の観点より考究したものである。
119. 道徳性の芽生えを培う	単著	2011年5月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 46巻469集 66～67頁	本論は、幼児期の課題である「道徳性の芽生えを培う」ということを、平成9年の教育課程審議会の最終報告や平成20年改訂「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」等より探ったものである。
120. 生活の中で身につけたい語彙力	単著	2011年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 46巻475集 18頁	本論は、生活の中で身につけたい語彙力をめぐって、幼・保の立場から探ったものである。幼・保の「語彙指導」は、小・中学校と異なり「話す・聞く」という一過性の音声の言葉が中核となり、そうした中で生活の言葉を育てていかなければならぬことについて触れた。
121. 学習指導要領の研究（その4）～新旧学習指導要領生活科の対比とその考察～	単著	2011年12月	埼玉学園大学紀要 第10号 293～298頁	本論は、生活科の学習指導要領が如何なる内容に改訂されたのかを新旧の学習指導要領を基に探ったものである。その結果、生活科の学習指導要領においては、「気付き」の質を高める観点から活動や体験を一層充実するための活動を重視していること、児童を取り巻く環境の変化を考慮し、「安全教育に関する内容」と「自然の素晴らしさ、生命の尊さを実感する指導」等の充実を図っていること等が明らかになった。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
122. 模擬授業を試みて～実践的指導力の学びをめぐって～	単著	2012年3月	実践女子大学生生活文化フォーラム第16号 115～123頁	本論は、「初等教科教育法（国語）」において、受講者である学生の実践的指導力の育成を志向し、小学校第2学年の教材「たんぼぼのちえ」や小学校第4学年の教材「一つの花」等によって授業を設計し、そしてそれを基に模擬授業を試み、そこから実践的指導力に内包される授業観、すなわち教材観、指導観、児童観等が如何に形成されたのを探ったものである。
123. 生活科の研究～生活科誕生と学習指導要領の変遷～（査読付）	共著	2012年3月	実践女子大学生生活科学部第49号 167～181頁	本論は、教育制度改革と関連付け生活科誕生の要素を探ると共に、平成元年の学習指導要領（生活）より平成20年改訂学習指導要領（生活）に至る変遷の様相を探ったものである。後者をめぐっては、教科の目標や内容等が平成元年の学習指導要領（生活）より平成20年改訂学習指導要領に至るまで如何なる内容に改訂されたか、又「気付き」の質が如何に高まったのか等について触れた。 共著者：松田典子、 <u>生野金三</u> 担当部分：「はじめに、」（167～170頁）「小学校学習指導要領に係る新旧対照の考察、おわりに」（175～181頁）
124. 教職実践演習の実証的研究～授業観形成の試み～（査読付）	共著	2012年3月	実践女子大学生生活科学部第49号 95～108頁	本論は、まず中央教育審議会の教育制度改革に触れ、その中の教職実践演習を取り上げ、そのあり様を実証的に探ったものである。科目「教職実践演習」においては教員に求められる資質能力、就中、実践的指導力の形成と確認が主たるねらいである。今回は、実中、実践的指導力の形成と確認が主たるねらいである。今回は、実践的指導力のある様を志向し、教科に関する科目「国語」において授業を設計し、模擬授業を試み、そこにおいて実践的指導力に内包される教材観、指導観等の授業観が（受講者である学生の）如何に形成されたかを探った。 共著者： <u>生野金三</u> 、原口純子、水野いずみ他 担当部分：「はじめに、」「模擬授業と授業設計をめぐって」「学

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
125. 保幼小連携の意義をあらためて問う	共著	2012年3月	実践女子大学生生活文化フォーラム第16号 101～114頁	習指導案の作成とその指導の「方法」 「授業観形成をめぐって」 (95～106頁) 本論は、保育所や小学校の現場より提案された保幼小連携について考察を加えたものである。とりわけ、今回は保幼小連携の意義をめぐって検討を加えた。 共著者：乙訓稔、 <u>生野金三</u> 、原口純子他 担当部分：「連携カリキュラムの教科位置付け」 (102頁) 「小学校の学びのスタイルと幼稚園とをどうつなぐか」 (104頁) 「学びのスタイル以前に幼少期の遊びや生活が課題では」 (105頁)
126. 『国語単元学習の創造Ⅱ 保育所・幼稚園』に学ぶもの	単著	2012年8月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 47巻484集 79～80頁	本論は、保育所・幼稚園において単元学習が可能か否かを探ったものである。単元学習の精神は学習者中心の思想の基づくとされるが、保育所・幼稚園での子供の活動は幼児自身の生活や遊びからスタートしている。ここには、単元学習の萌芽を見ることができる。
127. 教職実践演習の 実的研究保育観・ 授業観の形成を志 向して (査読付)	共著	2013年3月	実践女子大学生生活 科学紀要第50号 21～38頁	本論は、平成22年度に「教職に関する科目」に新設された「教職実践演習」のあり様を実践的に探ったものである。先ず、模擬保育や模擬授業を視野に入れ、指導案を作成し、そしてその振り返りを通して、教員としての資質能力 (教材観、幼児児童生徒観、指導観等の保育観、指導観) が如何に高まったのかを探った。 共著者： <u>生野金三</u> 、井口眞実、松田典子 担当部分：「はじめに」「授業づくりをめぐって」「国語における授業観形成の試み」 (21～27頁)
128. 特別支援学校におけるテクノロジーを活用した数学的教材の開発とその指導法 (査読付)	共著	2013年3月	実践女子大学生生活 科学部紀要第50号 69～75頁	本論は、サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (spp) での実践を通して従来特別支援学校において十分に対応することができなかった図形教材の開発を試みた。テクノロジー (図形ソフト) を活用し開発した教材がどのよう

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
129. 実践的指導力の育成をめぐる～道徳の模擬授業を試みて～	単著	2013年3月	実践女子大学生生活文化フォーラム第17号 95～102頁	<p>な面で有効な役割をするか明らかにした。 共著者：生野金三、中込雄治 担当部分：「はじめに」（69～70頁）</p> <p>本論は、教員に求められている資質能力、就中実践的指導力の基礎の育成を志向し、教職に関する科目「道徳の指導法」において道徳の授業を設計し、それを基に学習者である学生の授業観が如何に形成されたかを探った。</p>
130. 実践的指導力の育成の試み 特別活動の指導案の作成を通して (査読付)	単著	2013年3月	日本教材学会 教材学研究 第24巻 155～162頁	<p>本論は、教職に関する科目である「特別活動」の授業において授業設計を試み、そして模擬授業を行い、そこにおいて教員に求められている実践的指導力が如何に育成されたか探ったものである。</p>
131. 教職実践演習の 実的研究	共著	2013年3月	実践女子大学生生活 科学部生活文化学 科 1～62頁	<p>本論は、教職に関する科目「教職実践演習」のあり様を実践的に探ったものである。今回は「履修カルテ」の記入の方途、そしてそれを生かして教員としての資質能力の四者を如何に確認するか、更にそれを如何に育成するかについて触れた。 共著者：生野金三、井口眞実、中込雄治、笹川啓一（62頁） 担当部分：「はじめに」「教職実践演習」「資質能力」（2～26頁） 「特別活動における実践的展開の構想とそれに対する考察」（51～62頁）</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
132. 保幼小連携をめぐって	単著	2013年6月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 18巻494集 64～65頁	本論は、平成20年改定（改訂）された「保育所保育士指針」「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領』において叫ばれている保小連携の必要性和、そこでの課題（保育内容と教育内容世の異同、学びの捉え方の異同、学び手である幼児児童の個々人の捉え方の異同）について触れたものである。
133. 教職実践演習の実証的研～実践的指導力の育成を志向して～ (査読付)	単著	2013年9月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第1号 69～84頁	本論は、平成22年度より新設科目として教職課程の中に位置づけられた「教職実践演習」のあり様を実践的に探ったものである。特に、今回は、教職に関する科目である「国語語科特講」において模擬授業を試み、それを基に教員としての資質能力の高まりを探った。
134. 課題発見の様相 課題発見の様相をめぐって～課題探求能力の育成を志向して～ (査読付)	共著	2013年9月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第1号 85～93頁	本論は、課題発見の過程を具体的実践を通して探ったものである。就中、今回はKJ法を導入して課題を焦点化していく方法を探った (85～93頁) 共著者：生野金三、中谷陽子 担当部分：(85～93頁)
135. 国語科の特質	単著	2013年9月	日本教材学会 教材事典 教材研究の理論と実践 66～168頁	本論は、戦前戦後の学力観、国語科教材の考え方、そして言語活動の充実や言語活動の生成等の観点から言語活動を生成する教材の特質について触れたものである。
136. 言語事項の領域	単著	2013年9月	日本教材学会 教材事典 教材研究の理論と実践 80～81頁	本論は、平成20年改訂の『小学校学習指導要領解説 国語編』を基に、「言語事項の指導」のあり方、そして「言語指導の構造と教材研究野視点」について触れたものである。
137. 授業観形成の試み～実践的指導力の基礎の育成を志向して～ (査読付)	単著	2014年3月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第2号 89～102頁	本論は、教員に求められている資質能力、就中実践的指導力の基礎の育成を志向し、国語科における授業設計を通して受講者である学生の授業観形成の様相を探ったものである。受講者である学生は授業設計の段階において「児童の立場」と「教師の立場」とを重ね合わせながら、単元の研究、教材の研究、そしてそれを基盤に授業のあり様について指摘していた。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
138. 読書へのアニメーションの研究 (査読付)	単著	2014年3月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第2号 141～155頁	本論は、一冊の様々な読み方を提示し、子供の読む力を引き出すところに基礎を置いている「読書へのアニメーション」を指導する際の実践的指導力の育ちについて探ったものである。今回は、「読み間違いを子供が言い当てるゲーム」、つまり「ダウトを探せ」の実践を試みた。
139. 大学における教養教育の考察（その他） (査読付)	単著	2014年3月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第2号 157～166頁	本論は、平成3年以降の大学審議会の答申と中央教育審議会の答申等を基に大学における教養教育の変遷の様相を探ったものである。
140. 学習指導要領の研究～新旧学習指導要領体育科の対比とその考察（小学校）～ (査読付)	共著	2014年3月	仙台青葉学院短期大学研究紀要青葉第5巻第2号 121～139頁	本論は、体育科の学習指導要領が如何なる内容に改訂されたのかを新旧の学習指導要領を基に探ったものである。その結果、体育科の学習指導要領においては、基礎的な身体能力を身に付け、実際の生活場面において運動を実践していくための資質能力の基礎を培うことを願っていることが明らかになった。
141. 道徳性の芽生えをめぐって	単著	2015年7月	日本国語教育学会月刊国語教育研究50巻519集 64～65頁	本稿は、幼稚園教育要領における道徳性の芽生えの様相を史的に探り、特に領域「人間関係」のな中で道徳性に関する言及が目立つことを指摘し、考察を加えた。
142. 複式教授における教材排列とその実際～加納友市の場合～ (査読付)	共著	2016年3月	教材学研究集録27巻 37～45頁	本研究では、我が国において複式教授を名付けて提唱した加納友市（かのうともいち）の複式教授論について考察し、理解を深めた。まず、複式教授の教材排列（配列）について、「各部同時に同種類同程度の教材を課す場合」、「各部同時に同種類異程度の教材を課す場合」、「各部同時に異種類異程度の教材を課す場合」について考察した。次いで、複式教授の過程において「直接教授」と「間接教授」をどのように組み合わせるか、その種類について考察した。それをもとに加納友市の複式教授論の特色を整理した。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
143. 幼稚園における指導計画の研究～史的変遷～ (査読付)	共著	2016年3月	新渡戸文化短期大学学術雑誌 6号 1～16頁	<p>本稿は、幼稚園の教育課程について探ったものである。幼稚園の資格を明確にした1899（明治32）年の「幼稚園保育及び設備規程」、そして幼稚園に関する最初の単独勅令である「幼稚園令」（1926（大正5）年）、さらに「幼稚園教育要領」という語が初め公にされた「幼稚園教育要領（1959（昭和31）六領域構成）、さらにまた1964（昭和39）年の「幼稚園教育要領」（幼稚園教育要領の第1次改訂 六領域構成）、最後に1989（平成元）年の「幼稚園教育要領」（幼稚園教育要領の第2次改訂 五領域構成）等における内容構成とその指導計画の様相を探った。</p> <p>共著者：伊澤永修、加藤ひとみ、<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」「Ⅱ指導計画の研究、1 幼稚園保育及び設備規定、2 幼稚園保育及び設備規程の改正、3 幼稚園令施行規則、4 幼稚園教育要領」（昭和31年）」（1～7頁）「Ⅲおわりに」（14～15頁）</p>
144. 実践的指導力の育成に向けた「教職実践演習」の研究 (査読付)	単著	2016年8月	人文科教育研究会 人文科教育研究第43号 1～13頁	<p>本論は、「教職履修カルテ」を活用した個々人の課題設定のあり様の研究、その課題を基に資質能力の力量を育成する方法についての研究である。「教職履修カルテ」を基に受講者である学生は個々の課題を明確にし、そしてその課題の解決を志向しプレゼンテーションのために作成した学習指導案（特別活動）に修正を加えた。そこから、「導入段階での指導」や「展開段階での指導」等において受講者である学生の授業観についての変容が認められた。</p>
145. アクティブ・ラーニングの研究 (査読付)	共著	2017年1月	関西福祉科学大学 研究紀要20号 61～77頁	<p>本稿では、ではアクティブ・ラーニングを導入した授業、つまり模擬授業（教職に関する科目で学生が学生を対象に）や学習指導（児童を対象に）において指導者の授業観の高まり、そして学び手である児童の思考の深まり等の様相を探った。</p> <p>共著者：香田健治、生野桂子、<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」「Ⅱアクティブ・ラーニングを導入し</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
146. 学習指導要領の研究～新旧学習指導要領理科の対比とその考察（小学校）～（査読付）	共著	2017年3月	関西福祉科学大学 総合福祉科学学会 『総合福祉科学研究』第8号 61～71頁	<p>た授業の試み～模擬授業～」(61-70頁)</p> <p>本論は、理科の学習指導要領が如何なる内容に改訂されたのかを新旧の学習指導要領を基に探ったものである。その結果、6つの観点に従って改訂されたことが明らかになった。</p> <p>共著者：山本眞希、<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」(61-63頁) 「Ⅱ理科改訂のポイント:小学校」(63～64頁)</p>
147. アクティブ・ラーニング研究～協働学習の視点から～（査読付）	共著	2017年3月	関西福祉科学大学 総合福祉科学学会 機関誌『総合福祉科学研究』 43～60頁	<p>本稿は、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を試み、それに考察を加え、アクティブ・ラーニングの重要性を探ったものである。</p> <p>共著者：湯川雅紀、香田健治、生野桂子、<u>生野金三</u>、青木靖</p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」「Ⅱアクティブ・ラーニングの実践」(43-47頁) 「Ⅲ おわりに」(59～60頁)</p>
148. 昭和20年代の学習指導要領（試案）に関する研究（査読付）	共著	2017年3月	関西福祉科学大学 総合福祉科学学会 機関誌『総合福祉科学研究』 31～41頁	<p>本稿は、1947（昭和22）年と1951(昭和26)年における教育課程の様相を試案の学習指導要領を基に探ったものである。教育課程を構成するに当たって「学習経験の構成」「学習経験を組織する際の考慮事項」等が具体的に提案され、経験主義教育を推進しようとする教育課程であることが明らかになった。</p> <p>共著者：香田健治、生野桂子、<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」(31～32頁) 「Ⅱ 戦後の教育改革（21951(昭和26)年改訂の学習指導要領（試案）におけるカリキュラム）」(35～39頁) 「Ⅲ 教育課程編成の原理」(39～41頁)</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
149. 領域「言葉」の研究 (査読付)	共著	2017年3月	新渡戸文化短期大学学術雑誌 7号	<p>本稿は、言葉の獲得に関する領域「言葉」を中核に据え、1989年改訂幼稚園教育要領と2008年改訂幼稚園教育要領等における「ねらい」や「内容」等に焦点を当て、その指導の方向性について探ったものである。</p> <p>共著者：伊澤永修・<u>生野金三</u>・香田健治</p> <p>担当部分：「Ⅰはじめに」(47～48頁)「Ⅱ 領域「言語」から言葉の獲得に関する「言葉」(48頁)「Ⅲ 領域「言葉」が目指しているもの」(50～52頁)</p>
150. 授業観形成を基盤とした実践的指導力の育成 (査読付)	共著	2017年3月	教材学研究集録28巻	<p>本稿では、授業を設計し、模擬授業を試み、その振り返りを通して、受講者である学生の授業づくりや実践に対する意識がいかに変容したかについて探った。受講者である学生は「児童の立場」に「教師の立場」を重ねながら、また「教師の立場」に「児童の立場」を重ねながら模擬授業とらえていた。</p> <p>共著者：生野桂子・<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「1 教員に求められる資質能力」(105～106頁)「2 授業設計力」(106～107頁)</p>
151. 領域「環境」の研究	共著	2017年3月	こども教育研究所紀要 第11・12合併合 新渡戸文化短期大学	<p>本稿は、幼稚園教育要領における領域「環境」に焦点を当て、「ねらい」及び「内容」等が如何様に変ったのか、その変容の様相を探ったものである。</p> <p>共著者：伊澤永修・<u>生野金三</u></p> <p>担当部分：「Ⅰ はじめに」(1～2頁)「Ⅱ 領域「環境」の変遷に関する考察」(2～6頁)「Ⅲ 領域「環境」の変遷」(6～13頁)</p>
152. 実践的指導力の育成を志向して～保育観の育成を通して～	共著	2017年11月	東京成徳短期大学紀要 第51号 85～94頁	<p>本稿は、指導計画作成、そして模擬保育実践、さらに保育の実践活動等を試みて、受講者である学生の実践的指導力の育ち如何に育成されたのか、また幼児の心が如何に変容したのかを探ったものである。その実践的指導力は、教育実践に必要な教材研究や教材開発、指導法の理論、評価、乳幼児</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
153. アクティブ・ラーニング研究～学びに向かう活動を通して～	共著	2017年11月	東京成徳短期大学紀要 第51号 95～104頁	<p>理解を踏まえた指導計画の作成よりその実践に至る一連の力量のことである。この実践的指導力は指導者である教師の教材観、乳幼児観、環境の構成観、指導観等の保育観が基盤となっている。</p> <p>担当部分：「Ⅰ 教員に求められる資質能力」（85～88頁）「Ⅲ おわりに」（94頁）</p> <p>共著者：福山多江子・<u>生野金三</u>・永井優美・大澤洋美</p> <p>本稿は、能動的な遊びを導入した活動によって、幼児の資質・能力の育成を志向し、実践を試み、環境構成と保育展開の方途について探ったものです。特に「アクティブ・ラーニングを導入した保育」として「生活の授業における学生の協働的な学びに関する実践研究」、「アクティブ・ラーニングを導入した保育実践事例」、「主体的で対話的な深い学びと教師の計画と意図」等の実践を掲げた。</p> <p>担当部分：「Ⅰ はじめに」（95～96頁）「Ⅲ おわりに」（104頁）</p> <p>共著者：福山多江子・<u>生野金三</u>・香田健治・大澤洋美</p>
154. 特別活動の内容の構成	共著	2017年12月	鼎書房（『幼稚園と小学校の教育（初等教育原理）～指導案づくり～』所収）	<p>本稿は、平成29年に改訂された特別活動の内容の特色を探ったものである。見方・考え方を働かせて資質・能力を育成することを重要視し、三者の内容（「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」）を掲げ、これらの三者は、育成することを目指す資質・能力に関わるものであるとし、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」に、「学びに向かう力・人間性等」等に関する目標をそれぞれ掲げている。各活動・学校行事の目標も個の資質・能力に従って改善されている。</p>
155. 主体的・対話的で深い学びの研究～アクティブ・ラーニングの視点から～ (査読付)	単著	2018年1月	人文学教育研究会人文学教育研究第44号 137～145頁	<p>本稿は、アクティブ・ラーニングを導入した授業、つまり模擬授業（教職に関する科目「生活科教育法」）において受講者である学生の授業設計力や授業実践力等に対する見方・考え方が如何に深ま</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
156. 総合的な学習の時間の研究 (査読付)	単著	2018年2月	開智国際大学紀要 第17号 pp. 95～101	<p>ったのかを探ったものである。</p> <p>本稿は、「総合的な学習の時間」の目標に掲げられている「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに」の中の「自ら課題を見付け」という部分に焦点を当て、課題発見の重要性、そして課題発見の方法についての様相を探ったものである。</p>
157. 教職実践演習の実証的研究	共著	2018年3月	新渡戸文化短期大学 学術雑誌 8号	<p>本研究では、授業科目「教職実践演習」において、模擬遠足の実践を試み、その学修の振り返りを通して受講者である学生の資質・能力の高まりの状況を考察し、それを踏まえて資質・能力を確かに身に付ける方途を整理した。</p> <p>担当部分：「Ⅰ はじめに」「Ⅲ おわりに」(10～19頁)</p> <p>共著者：伊澤永修・<u>生野金三</u></p>
158. 言葉の育ちを考える	単著	2018年9月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 53巻557集 pp. 56～57	<p>本稿は、平成29年に改訂された幼稚園教育要領の特徴及びに領域「言葉」の特徴について考察を加えたものである。前者をめぐっては、幼児教育において育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、一方後者をめぐっては、豊かな言葉の育ちについて、それぞれ触れた。</p>
157. アクティブ・ラーニング型授業による国語科指導法の開発的研究	単著	2018年10月	一般財団言語教育振興財団 研究成果報告収録(20) pp. 62～63	<p>本論は、「教科及び教科の指導法に関する科目」において、教員に求められる資質・能力、特に実践的指導力の育成を志向し、授業づくりから実践に至る指導法の開発を実践的に探ったものである。</p>
158. 昭和33年と昭和43年の学習指導要領に関する研究 (査読付)	共著	2019年1月	関西福祉科学大学 総合福祉科学学会 機関誌『総合福祉科学研究』	<p>本論は、1958(昭和33)年改訂の学習指導要領と1968(昭和43年)改訂の学習指導要領の焦点を当て、そこにおける教育課程の特色を探ったものである。</p> <p>担当部分：「Ⅰ はじめに」「Ⅱ 系統主義の教育課程」(39～43頁)「Ⅳ おわりに」(46～47頁)</p> <p>共著者：<u>生野金三</u>・香田健治・生野桂子</p>
159. 国語科における	単著	2019年3月	開智国際大学紀要	<p>本稿では、昭和52年改訂学習指導</p>

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
<p>関連指導の研究言語能力の育成を志向して(昭和52年改訂の学習指導要領を中心に) (査読付)</p>			pp. 149～158	<p>要領における国語科の関連指導の様相を、これまでの学習指導要領(昭和22年版〈試案〉、昭和26年版〈試案〉、昭和33年版、昭和43年版等の国語科の関連指導)と対比しながら探り、そして国語科の関連指導の特色を明らかにし、その具体的な展開の様相の一端について考察を加えた。</p>
<p>160. 実践的指導力の育成</p>	共著	2019年3月	新渡戸短期大学子ども教育研究所紀要	<p>本稿では、模擬遠足や模擬保育等の実践を試みて、受講者である学生の実践的指導力が如何に高まったのかを探った。前者の模擬遠足においては、教職実践演習で求められている四者の資質・能力の育ちの一端が認められ、一方後者の模擬保育に置いては、「教育の専門家としての確かな力量」「職務に対する愛情、誇り、一体感」などの資質・能力を身に付けようとする姿が認められた。 担当部分：「Ⅰ はじめに」(30～33頁)「Ⅲ おわりに」(47～48頁) 共著者：伊澤永修・<u>生野金三</u>・香田健治</p>
<p>161. 教職実践演習の研究—幼稚園教諭養成課程における実践例の分析と展開—</p>	共著	2019年3月	東京成徳短期大学紀要	<p>本稿では、平成22年に教職に関する科目に新設された「教職実践演習」において、模擬保育や模擬遠足を導入し、教員に求められる資質・能力、就中実践的指導力の様相を探った。 担当部分：「Ⅰ はじめに」(51～52頁)「Ⅲ おわりに」(62頁) 共著者：福山多江子・<u>生野金三</u>・高木史人・香田健治・伊澤永修共著</p>
<p>162. 主体的・対話的で深い学びの研究—幼稚園教諭養成課程における実践—</p>	共著	2019年3月	東京成徳短期大学紀要	<p>本稿では、「主体的・対話的で深い学びの研究」といテーマのもとに模擬保育の計画よりその実践、その振り返りを通して教員に求められる子供観、保育観、指導観等が如何に高まったのかを探った。 担当部分：「Ⅰ はじめに」(35～36頁)「Ⅲ おわりに」(48～49頁) 共著者：福山多江子・<u>生野金三</u>・大澤洋美・香田健治・永井優美</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
163. 幼稚園教育要領 と小学校学習指導要領との繋がり	単著	2019年 6 月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 53巻557集 pp. 56～57	本稿では、遊びや学びの連続性という観点から、語彙力の基礎となる「言葉に関する感覚を豊かに（幼稚園教育要領）」及び「言語感覚を養う（小学校学習指導要領）」等についての様相を探った。言語に対する感覚をめぐって、幼稚園（領域「言葉」）と小学校（「国語」）のいずれも状況に応じて適切な言葉の表現を使うことができるようになることを重要視していることが分かった。
164. 領域「言葉」の研究－指導法のあり様を志向して－	共著	2019年 7 月	尚綱大学短期大学部 幼児教育学科紀要『児やらい』16号 P25～p39	本稿は、領域「言葉」の研究と題し、その基盤となる考え方まず探り、それを踏まえ指導のあり様を具体的に探ったものである。前者の基盤となる考え方をめぐっては、人間生活の中で言葉はどのような働きをしているのかという観点より言葉の機能について、『幼稚園教育要領』において領域「言葉」の指導を展開する際、重要視されている「話し言葉と書き言葉」の様相について、さらに領域「言葉」における「ねらい」及び「内容」の特色等についてそれぞれ探った。一方、後者の「言葉」の指導のあり様をめぐっては、2017年改訂の『幼稚園教育要領』の「ねらい」及び「内容」の改善点に着目し、検討を行った。また、領域「言葉」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連について論究した。そして、領域「言葉」において特に重要視されている「言葉に対する感覚を豊かに」することを志向して「言葉を豊かにする単元の構想と実践例」という項のもとに論を展開した。 担当部分：「Ⅰ言葉の機能」「Ⅱ言葉の領域」「(p 25～p29)」「領域『言葉』の研究」(p 31～p32)「Ⅳ領域『言葉』の指導法」(p 31～p36)「Ⅴおわりに」(p 38～p39) 共著者：生野金三・香田健治・生野桂子
165. 「主体的・対話的で深い学び」の	共著	2019年 7 月	尚綱大学短期大学部 幼児教育学科紀	本稿では、アクティブ・ラーニングを導入した授業、つまり模擬

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
研究－アクティブ・ラーニングの視点から－			要『児やらい』16号 P13～p23	授業（教職に関する科目「教育の方法と技術」）において受講者である学生の授業設計力や授業実践力等に関する見方・考え方が如何に高まったかを探った。受講者である学生の模擬授業の振り返りやポートフォリオ等から以下の内容が認められた。まず、授業づくりをめぐるのは、指導する対象である学習者を意識して授業を設計することの重要性に気付き、そして授業実践力をめぐるのは、学びを深めたり、児童自身が何か気付くようにしたりするため、発問の仕方、板書の仕方、言葉の使い方等の工夫、加えて短冊等の教材作成等と方法知の重要性に気付いていた。授業設計力、授業実践力のいずれも実践的指導力に内包されている故、ここからは実践的指導力の育ちの一端が認められる。 担当部分：「Ⅰはじめに」「Ⅱアクティブ・ラーニングの実践」「Ⅲ模擬授業とその実践」（p13～p20） 共著者：生野金三・生野桂子

(その他)				
1 「学校における危機管理上の課題」「学校の内外における連携協力について」	単著	2015年8月	北海道科学大学 「平成27年度教員免許状更新講習」冊子 (1～20頁)	(生徒指導の意義) 更新講習においては、まず学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。という「学校安全計画の策定」の重要性について解説し、そしてその実践の方途について様々な観点よりまとめた。学校における危機管理は、学校内外における連携協力の面からも探った。特に児童生徒等の安全確保を図るためには、策定したリスク・マネジメントを基に一人一人の児童生徒の個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動が行わ

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
				れることが重要であると解説した。そして、こうした生徒指導によって、すべての児童生徒のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しているということについてまとめた。更に、生徒指導は、学習指導と並んで学校教育においては重要な意義を有していることについてもまとめた。
(その他) 「学会発表」 1. 読書指導に関する提案授業	共同	1975年1月	第16回九州小学校 国語教育研究大会 (鹿児島大学 教育学部附属小学校)	
2. 現代社会における読書指導	単独	1978年8月	第54回 全国大学国語 教育学会 (私学会館)	
3. 1980年代の国語教育をさぐる	単独	1979年7月	第19回桐蔭 国語教育研究大会 (シンポジウム) (筑波大学)	
4. 樋口勘次郎論	単独	1982年8月	第62回 全国大学 国語教育学会 (茗溪会館)	
5. 樋口勘次郎の作文教育論の考察	単独	1982年10月	第63回 全国大学 国語教育学会 (岡山大学) 日本国語教育学会	
6. 国語科単元学習の試み	単独	1983年2月	(シンポジウム) (茨城県新治郡桜 村立竹園東小学校)	
7. 谷本富の作文教授論	単独	1983年8月	第64回 全国大学 国語教育学会 (茗溪会館)	

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
8. 上田萬年の作文 教授論	単独	1984年10月	第67回 全国大学 国語教育学会 (神奈川県立婦人 総合センター)	
9. 小山忠雄の読書	単独	1985年10月	第69回 全国大学 国語教育学会 (愛知教育大学)	
10. 小山忠雄の作文 教授論	単独	1986年8月	第70回 全国大学 国語教育学会 (茗溪会館)	
11. 友田宜剛の綴り 方教授論	単独	1986年10月	第71回 全国大学 国語教育学会 (大分大学)	
12. 友田宜剛の綴り 方教授論Ⅱ	単独	1987年7月	第72回 全国大学 国語教育学会 (茗溪会館)	
13. 生活の言葉を育 てる指導	単独	1987年8月	第50回 国語教育全国大会 (シンポジウム) (国立教育会館)	
14. 友田宜剛の綴り 方教授論Ⅲ	単独	1988年7月	第74回 全国大学国語教育 学会 (東京名溪会館)	
15. 友田宜剛の綴り 方教授論Ⅳ	単独	1991年8月	第76回 全国大学 国語教育学会 (東京名溪会館)	
16. 子どものことば を育てる環境を考え る	単独	1999年6月	第53回 国語教育全国大会 (東京国立教育会 館)	
17. 教材化をめぐっ て	単独	2000年8月	第24回 日本国語教育学会 西日本(関西) 集会福岡大会 (福岡教育大学 附属小・中学校)	

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
18. 幼・少における ことばの育ちをも とめて	単独	2000年8月	第63回 国語教育全国大会 (筑波大学附属 小学校)	
19. 生活からのこと ば	単独	2001年8月	第64回 国語教育全国大会 (筑波大学附属小 学校)	
20. 読むこと	単独	2002年8月	第65回 国語教育全国大会 (東京都文京区本 郷小学校)	
21. 教材「ごんぎつ ね」の素材的研究	単独	平成14年11月	日本教材学会 第14回研究発表大 会(日本大学文理 学部)	
22. 子どものことば から道徳性の世界を 探る	単独	2003年8月	第66回 国語教育全国大会 (青山学院大学)	
23. 教材「ごんぎつ ね」の素材的研究 (2)	単独	2003年11月	日本教材学会 第15回 研究発表大会 (東京学芸大学)	
24. 教材研究(「ご んぎつね」を中心 に)	単独	2004年8月	第67回 国語教育全国大会 (青山学院大学)	
25. 確かなことばの 力をはぐくむ国語教 育の創造	単独	2004年8月	第51回 英彦山国語教育 研究集会 (福岡・アドベン チャーセンター森の家)	
26. 学習支援授業 「わくわくドキドキ 名人授業	単独	2004年10月	鹿児島財部町立 財部中学校	
27. 確かなことばの 力をはぐくむ国語教 育の創造	単独	2005年2月	福岡県北九州立 若園小学校	
28. 「授業を見る 目」の育成	単独	2006年11月	日本教材学会 第18回 研究発表大会 (日本大学文理学 部)	

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
29. 豊かな表現力をつけるための指導法の研究	単独	2008年10月	新座市立野火止小学校	
30. 書くことを通して豊かな表現力をつける	単独	2009年1月	新座市立野火止小学校	
31. 国語科授業観形成の試み	単独	2009年10月	日本教材学会 第21回 研究発表大会 (日本大学文理学部)	
32. 「ごんぎつね」の授業づくり(小学校)	共著	2010年8月	第73回 国語教育全国大会 (二松学舎大学)	
33. 特別活動の研究	単独	2010年10月	日本教材学会 第21回 研究発表大会 (帝京短期大学)	
34. 生涯にわたって身につけたい語彙力	単独	2011年8月	第74回 国語教育全国大会 (日比谷公開堂)	
35. 「ごんぎつね」の授業づくり(小学校)	共著	2011年8月	第74回 国語教育全国大会 (品川区立小中一貫日野学園)	
36. 授業観形成の試み	単独	2011年11月	日本教科教育学会 第37回全国大会 (沖縄大学)	
37. 『国語科単元学習の創造Ⅱ(保育所・幼稚園)』に学ぶもの	単独	2011年12月	日本国語教育学会 部会(池袋第一小学校)	
38. 「ごんぎつね」の授業づくり(小学校)	単独	2012年8月	第74回 国語教育全国大会 (品川区立小中一貫校品川学園)	
39. 授業観形成の試みー国語科の授業設計を通してー	単独	2012年10月	日本教材学会 第24回 研究発表大会 (福山大学)	

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
40. 教職実践演習の研究	単独	2012年10月	日本教材学会 第25回研究発表 大会 (日本大学文理学 部)	
41. 教職実践演習の 実践とその課題	単独	2015年10月	日本教材学会 第27回研究発表大 会 (東京学芸大学)	
42. 教職実践演習の実 践と課題	共著	2016年10月	日本教材学会 第28回研究発表大 会(盛岡大学)	
43. 言葉の育ち	単著	平成28年8月	第80回国語教育全 国大会(窪町小学 校)	
44. 領域「人間関 係」について	単著	平成29年11 月	日本国語教育学会 幼稚園・保育所部 会(東京 としま 産振興プラザ)	
45. 領域「言葉」に ついて	単著	平成30年5月	日本国語教育学会 幼稚園・保育所部 会(東京 としま 産振興プラザ)	
46. 単元学習をめぐ って(言語教育の育 成を志向して)	単著	平成31年1月	日本国語教育学会 幼稚園・保育所部 会(東京 としま 産振興プラザ)	
47. 領域「言葉」の 指導内容をめぐっ て	単著	1989年	国語教育学会 月刊国語教育研究 24巻206集	
48. 豊かな言語生活 を拓く国語教育の 創造 (その他) [書評]	単著	令和元年5月	日本国語教育学会 幼稚園・保育所部 会(東京 としま 産振興プラザ)	
1. 『国語教育管見』 1	単著	令和元年8月	第82回国語教育全 国大会(筑波大学 附属小学校)	
その他) [資料] 1. いきいきとした ことばと生活を広げ	単著	1983年10月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究	

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表会等の名称	概 要
るために			1 8 卷 1 3 7 集	
2. 読み手を育て読 書生活をひらく指 導	単著	1984年10月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 1 9 卷 1 4 9 集	
3. 保育内容「言 語」のあり方	単著	1986年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 1 卷 1 7 4 集	
4. 生活の言葉を育 てる指導	単著	1987年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 2 卷 1 8 6 集	
5. 生活の言葉を育 てる指導	単著	1987年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 4 卷 1 9 8 集	
6. 子どものことば を育てる環境を考え る	単著	1989年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 4 卷 2 1 0 集	
7. 生活の言葉を育 てる指導	単著	1991年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 4 卷 2 1 0 集	
8. 乳幼児の言葉が 育つ意味	単著	1992年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 7 卷 2 3 4 集	
9. 生活の言葉を育 てる保育	単著	1994年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 7 卷 2 4 集	
10. V T R によるシ ンポジウムー言葉の 育ちを求めてー	単著	1995年11月	日本国語教育学会 月刊国語教育研究 2 9 卷 2 7 1 集	
(その他) 〔創作〕				
1. 「鼻取り地藏」 「かっぱの首」	共著	1975年1月	鹿児島島のむかし話 研究会編	
2. 「鳥追船」 「高江三千石」	共著	1977年10月	鹿児島島のむかし話 研究会編	
〔その他〕				
1. 学教科書国語辞典	共著	1982年1月	旺 文 社	

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	--------------------	----

I. 外部資金の獲得				
A 科学研究費補助金 (文部科学省、日本学術振興会)				
1. 基盤研究 (C)				
現行学校教育における「伝統」文化の分析及び活用の可能性についての総合的研究	共著	2016年4月	平成28年度～平成30年度科学研究費補助金(基盤研究(C)) (研究分担者)	(共著者) 高木史人、矢野敬一、 <u>生野金三</u> 、立石展大、蔦尾和宏、伊藤利明。 (研究代表者: 高木史人)
B. その他				
1. 文部省教育課程における教育内容・方法の開発研究	共著	2000年3月	文部省教育課程における教育内容・方法の開発研究報告書 13～14頁 (研究分担者)	教員養成学部のカリキュラムにおける「総合演習」のありようを志向し、小中高校の各学校段階で実施予定の「総合的学習の時間」の先行的実践を整理したものである。まず、総合的学習の目的やその導入の背景を明らかにし、総合的学習の実践例を挙げ、その分類等を試みた。そこから導き出される教員養成としての総合演習のあり方を提言した。 担当部分: 2の「総合学習におけるタイポロジー」(13～14頁) (共著者) (生野金三、内村秀人、 <u>生野桂子</u> ほか、全8名) (研究代表者: 生野金三)
2. 一般財団法人言語教育振興財団助成金 研究課題: アクティブ・ラーニング型授業による国語科指導法の開発的研究	共著	2017年3月	研究成果:	(研究代表者: 生野金三) 研究分担者: 香田健治
II. 学内資金の獲得				

<p>1. 実践女子学園 教育研究振興基 金助成金 研究課題：教職実 践演習の実証的研 究</p>	<p>共著</p>	<p>2011年5 月</p>	<p>研究成果：教職 実践演習の実証 的研究—授業観 形成の試み—実 践女子大学生活 科学部紀要第49 号 95～108頁</p>	<p>本研究では、教員に求められる 実践的指導力の基礎の育成を志向 し、教科に関する科目「国語」に おいて授業を設計し、模擬授業を 試み、そこにおいて受講者である 学生の授業観が如何に形成された 高について探った。加えて、家庭 科における授業づくりについても 探った。授業づくりにおいては、 「教師の立場」と「児童の立場」 を重ね合わせながら授業を構想し ていることが明らかになった。教 える立場と学ぶ立場の両者の視点 で授業をとらえることになる故、 ここからは教材観、指導観等の授 業観の育ちの一端が認められた (研究代表者：原口純子) 共著：原口純子、生野金三、本間 洋子、水野いずみ、塚田拓馬、松 田紀子、白尾美佳 担当部分：「はじめに」(95-97 頁)「2 模擬授業と授業設計を めぐって」(98-99頁)「3 学習 指導案の作成とその指導の方途」 (99-103頁)、「4 授業観形成 をめぐって～まとめにかえって ～」(103-106頁)、「5 家庭科 の授業実践」(106-107頁)(松 田紀子)、「6 おわりに」(107 頁)</p>
<p>2. 実践女子学園 教育研究振興基 金助成金 研究課題：教職実 践演習の実証的研 究</p>	<p>共著</p>	<p>2012年5 月</p>	<p>研究成果：教職 実践演習の実証 的研究 pp. 1-62</p>	<p>第I章では、科目「教職実践演 習」において育成すべき資質能力 の四者の内容について触れた。こ れは、科目「教職実践演習」の在 り方を探るに当たって、まずその 趣旨を確り踏まえておく必要があ ると思ったからである。第II章で は、「教職実践演習(教職履修カルテの確 認と指導の方途)」と題し、研究を深めた。 第III章では、科目「教職実践演習」の授業 を想定し、教員に求められる資質能力、特に 実践的指導力の在り方を国語科、社会科及び 算数科等の単元によって実践的に探った。特 に国語科においては、「教職履修カルテ」を 活用した個々の課題を踏まえ、実践的指導力 の育成について考察を加えた。第IV章では、 科目「教職実践演習」の授業を想定して、資 質能力、就中実践的指導力の育成のあり様を 「腕時計づくり」等の活動を基に実践的に探 った。 第V章では、教職に関する科目「特 別活動の指導法」の授業におい</p>

<p>3、関西福祉科学 大学共同研究 研究課題：実践的 指導力の育成に向 けた「教職実践演 習」の開発的研究</p>	<p>共著</p>	<p>2016年5 月</p>	<p>研究成果：実践 的指導力の育成 に向けた「教職 実践演習」の研 究（査読付） 平成28年8月 人文科学教育研 究・第43号、 人文科学教育学 会 pp. 1-13 生野金三</p>	<p>て、模擬授業を視野においた授業 設計を試み、そしてそこにおける 実践的指導力の育成の様相を探っ た。 （研究代表者：松田純子） 共著：生野金三、井口眞美、本間 洋子、塚原拓馬、水野いずみ、塚 田拓馬、松田紀子、白尾美佳、笹 川啓一、中込雄治 担当部分：「Ⅰはじめに」「Ⅱ教 職実践演習（教職履修カルテの確 認と指導の方途）」（1-12頁） 「Ⅲ資質能力（実践的指導力）の 育成の試み（小学校）（13-26 頁）」、「Ⅴ特別活動における実践 展開の構想とそれに対する考察」 （51-62頁） （研究代表者：生野金三） 研究分担者：高木史人、香田健治 他7名</p>
<p>4、関西福祉科学 大学 学長裁量 研究課題：新教育 課程の編成のあり 様の研究 —教育 改革の視点より—</p>	<p>共著</p>	<p>2016年7 月</p>	<p>研究成果：「ア クティブ・ラー ニングの研究」 （関西福祉科学 大学紀要20号） 平成29年1月 香田健治、生野 桂子、生野金三 「子どもの『主 体的・対話的で 深い学び』につ なげる研究私 史」（『こえの ことばの現在 —口承文芸の 歩みと展開— 』所収）株式 会社 美弥井書 店 平成29年4月 高木史人</p>	<p>（研究代表者：生野金三） 研究分担者：高木史人、香田健治 他7名</p>

<p>5、 関西福祉科学 大学共同研究 研究課題：アクテ ィブ・ラーニング 型授業による教科 指導法の開発的研 究</p>	<p>共著</p>	<p>2017年5 月</p>	<p>研究成果：「主 体的・対話的で 深い学びの研究 ーアクティブ・ ラーニングの視 点からー」（査 読付） 単著 2018年1月人文 科教育研究会人 文科教育研究第 44号 生野金三</p> <p>「実践的指導力 の育成を志向し て～保育観の育 成を通して～」 共著 2017年11 月 東京成徳短 期大学 紀要 第51号 生野金三、香田 健治</p> <p>「アクティブ・ ラーニング研究 ー学びに向かう 活動を通してー 」 共著 2017年 11月 東京成徳 短期大学 紀要 第51号 生野金三</p> <p>「総合的学習の 時間」の研究 単著 2018年3 月 開智国際 大学紀要 第17 号 生野金三</p> <p>「教職実践演習 の実証的研究」 共著 2018年 3月 新渡戸文化 短期大学 学 術雑誌 7号 生野金三</p>	<p>（研究代表者：生野金三） 研究分担者：高木史人、香田健治 他5名</p>
<p>6、 関西福祉科学 大学 共同研究 研究課題：大学 教員養成課程に</p>	<p>共著</p>	<p>2018年5 月</p>	<p>研究成果：言葉 の育ちを考える 「アクティブ・</p>	<p>（研究代表者：生野金三） 研究分担者：高木史人、香田健 治、湯川雅紀</p>

<p>における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングの視点)」アプローチへの実践的研究—カリキュラム・マネジメントの確立に向けて—</p>			<p>ラーニング型授業による国語科指導法の開発的研究」</p> <p>「昭和33年と昭和43年の学習指導要領に関する研究」 (査読付)</p> <p>「国語科における関連指導の研究言語能力の育成を志向して(昭和52年改訂の学習指導要領を中心に)」 (査読付)</p> <p>「実践的指導力の育成」</p> <p>「教職実践演習の研究—幼稚園教諭養成課程における実践例の分析と展開—」</p> <p>「主体的・対話的で深い学びの研究—幼稚園教諭養成課程における実践—」</p>	
---	--	--	---	--